

前ノ田村上第2遺跡（二次・三次）

Maenodamurakami2 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書66

2011

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第197集

『前ノ田村上第2遺跡（二次・三次調査）』正 誤 表

ページ・図番号	誤	正
p42 図版6	旧石器出土遺物③ 21	旧石器出土遺物③ 31
p43 図版7	旧石器出土遺物⑤ 64	旧石器出土遺物⑤ 69
報告書抄録 所収遺跡ふりがな	まえのた	まえのだ



南東方向から臨む前ノ田村上第2遺跡（三次）周辺



前ノ田村上第2遺跡（三次）全景

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成11年度から実施しております。本書はその最後の発掘調査報告書であります。

本書に掲載した前ノ田村上第2遺跡（二次、三次）は、平成21年4月から9月まで発掘調査を行い、後期旧石器時代の礫群や剥片尖頭器等の石器を中心に縄文時代の遺構・遺物も確認できました。

ここに報告する内容は、今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成23年1月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 森 隆 茂

例言

- 1 本書は、平成21年度に実施した東九州自動車道（都農～西都間）建設に係る前ノ田村上第2遺跡（二次・三次調査）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、西日本高速道路株式会社から委託を受けて宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 測量・空中写真・遺物実測は次の機関に委託した。
グリッド杭設定：（有）川南技術コンサルタント
空中写真：（有）スカイサーバイ九州
石器実測委託：（株）埋蔵文化財サポート、（株）九州文化財研究所
自然科学分析：（株）パリノ・サーヴェイ
- 4 本書で使用した周辺遺跡位置図は、国土地理院発行の25,000分の1図をもとに、トレンチ配置図は1,000分の1図を基に作成した。
- 5 本書で用いた座標は絶対海拔高であり方位は座標北（G. N.）を基本とし、位置図等の一部に磁北（M. N.）を使用した。
- 6 土層断面図の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』による。
- 7 現地での実測・写真等の記録は、主に、深江龍哉、出山真次、松本茂が行ったほか発掘作業員が補助した。
- 8 遺物写真の撮影は深江龍哉が行った。
- 9 本書の執筆・編集は深江龍哉が行った。
- 10 出土遺物その他の諸記録は宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

凡例

1. 石器の石材については色調や石質の特徴など細分が可能なものを肉眼で下記のとおり分類した。

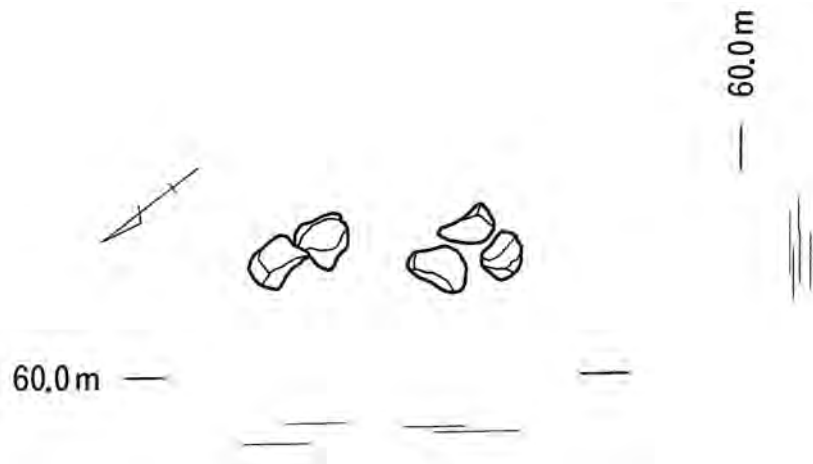
- 石材A 黄褐色に風化していて粉を吹いている様に見えるものでホルンフェルスに分類される。
- 石材B 灰～灰白色に風化していて表面がざらついているものでホルンフェルスに分類される。
- 石材C 白色を呈し、表面の触感がざらつくもので流紋岩に分類される。
- 石材D 珪質頁岩
- 石材E 頁岩
- 石材F 砂岩
- 石材G チャート
- 石材H 尾鈴山酸性岩類
- 黒曜石 a 桑ノ木津留
- 黒曜石 b 日東

2. 遺物実測図の縮尺、遺構略号は次の通りとする。

石器実測図… 1 / 2

S I …礫群、S C …土坑、S E …溝状遺構

3. 礫群実測図は下図の通り平面図と垂直分布図で示している。垂直分布図は礫の下端と長さを表している。



本文目次

第Ⅰ章	はじめに	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の組織	1
第3節	地理的環境	1
第4節	歴史的環境	2
第Ⅱ章	調査の方法と経過	4
第1節	二次調査の概要	4
第2節	三次調査の経過	4
第Ⅲ章	三次調査の記録	6
第1節	調査の概要	6
第2節	基本層序	6
第3節	旧石器時代の遺構と遺物	9
第4節	縄文時代の遺構と遺物	26
第5節	アカホヤ降灰以降の遺構	28
第Ⅳ章	自然科学分析	29
第Ⅴ章	まとめ	31
第Ⅵ章	総括	32

挿図目次

第1図	周辺遺跡位置図	3
第2図	調査トレンチ配置図	5
第3図	周辺遺跡図	5
第4図	三次調査区全体図	8
第5図	土層断面図	7~8
第6図	礫群分布図・土層断面図	10
第7図	礫群平面・垂直分布図(1)	11
第8図	礫群平面・垂直分布図(2)	12
第9図	出土遺物分布図	13
第10図	石材別出土遺物分布図	14
第11図	石器実測図(1)	15
第12図	石器実測図(2)	16
第13図	石器実測図(3)	17
第14図	石器実測図(4)	18
第15図	石器実測図(5)	19
第16図	石器実測図(6)	20
第17図	石器実測図(7)	21
第18図	石器実測図(8)	22
第19図	石器実測図(9)	23

第20図	石器実測図(10)	24
第21図	石器実測図(11)	25
第22図	縄文時代遺構分布図	26
第23図	遺構実測図	27
第24図	出土遺物分布図	27
第25図	石器実測図	27
第26図	時期不明遺構分布図	28
第27図	土坑実測図	28
第28図	溝状遺構実測図	28
第29図	溝状遺構土層断面図	28
第30図	暦年較正曲線	30
第31図	前ノ田村上第2遺跡1期・2期礫群分布図	33

表目次

第1表	基本層序	6
第2表	放射性炭素年代測定結果	30
第3表	暦年較正結果	30
第4表	石材別石器組成表(旧石器時代)	31
第5表	前ノ田村上第2遺跡基本土層比較表	32
第6表	石器計測表	35~36

図版

巻頭図版1	南東方向から臨む前ノ田村上第2遺跡(三次)周辺	
巻頭図版2	前ノ田村上第2遺跡(三次)全景	
図版1	北西方向から臨む前ノ田村上第2遺跡(三次)周辺、前ノ田村上第2遺跡(三次)周辺	37
図版2	調査区全景、調査区南側、調査区北側土層断面、調査区南側土層断面	38
図版3	礫群、作業風景、S11・2、S13、S14、S15、S16	39
図版4	S17、S17断面、遺物出土状況、SC6、SC8、SE1、SE1土層断面	40
図版5	SE2、SE2土層断面、土石流、旧石器時代出土遺物①	41
図版6	旧石器時代出土遺物②、③	42
図版7	旧石器時代出土遺物④、⑤	43
図版8	旧石器時代出土遺物⑥、⑦	44
図版9	旧石器時代出土遺物⑧、⑨	45
図版10	旧石器時代出土遺物⑩、⑪	46
図版11	旧石器時代出土遺物⑬、縄文時代出土遺物	47

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道(都農～西都間)は、平成元年2月に基本計画が出され、平成9年3月には整備計画路線となった。さらに、平成9年12月に建設大臣(現国土交通大臣)から日本道路公団(現西日本高速道路株式会社)へ施行命令が出され、公団は翌年の2月から事業に着手している。その間、宮崎県が遺跡詳細分布調査を行い、それに基づき埋蔵文化財の保護について関係機関と協議を重ねた結果、記録保存の措置を講じることになり、工事によって影響が出る部分に関して工事着手前に発掘調査を実施することになった。調査は平成11年度より宮崎県埋蔵文化財センターが行っている。

前ノ田村上第2遺跡は、平成17年に過密植栽部分以外の範囲6,045㎡を対象に一次調査を実施した。

その結果、旧石器時代、縄文時代草創期～早期、古墳時代初頭の遺構・遺物が確認されている。

その後、平成20年3月に隣接する過密植栽部分約2,700㎡の伐採が完了し引き渡しが行われ、21年4月22日から4月24日にかけて二次調査を実施した。

調査の結果、旧石器時代と見られる遺構が確認され、1,120㎡の範囲を対象として三次調査を実施することになった。三次調査は平成21年6月9日～9月11日まで実施した。

第2節 調査の組織

前ノ田村上第2遺跡の調査組織は次の通りである。

調査主体	宮崎県教育委員会 宮崎県埋蔵文化財センター
所長	福永 展幸(平成21年度) 森 隆茂(平成22年度)
副所長兼総務課長	長友 英詞(平成21年度)
副所長	北郷 泰道(平成22年度)
総務課長	矢野 雅紀(平成22年度)

主幹兼総務担当リーダー

高山 正信(平成21年度)

副主幹兼総務担当リーダー

長友 由美子(平成22年度)

調査第一課長 長津 宗重(平成21・22年度)

副主幹兼調査第一担当リーダー

飯田 博之(平成21・22年度)

主査(調査担当) 出山 真次(平成21年度)

主任主事(総括) 松本 茂(平成21年度)

主事(調査・整理担当)

深江 龍哉(平成21・22年度)

調査指導 橋 昌信(別府大学教授)

第3節 地理的環境

川南町は、宮崎県の中央部、宮崎平野の北端部に位置する。東に日向灘を望み、北西には尾鈴山(標高1,405m)が位置する。町の北西部には尾鈴山塊に属する^{じよめぎ}上面木山(標高1,040m)が位置しており、そこから丘陵が派生する。さらに、丘陵東麓から海岸にかけて広がる段丘が町域の大半を占めている(第1図)。

段丘は名貫川や平田川の侵食崖や谷によって14の段丘面に区分される。代表的な段丘面として、川南原面、野田原面、国光原面、唐瀬原面、川南原面などが挙げられる。段丘は「原」を付している地名が示すように平坦面が広がり、古くから人の生産活動の場となっている。

前ノ田村上第2遺跡は、南側に赤坂遺跡の立地する国光原段丘面と、北側に中ノ迫第1～3遺跡が立地する唐瀬原段丘面との2つの段丘面に挟まれ、大字大内を扇頂とする小規模な扇状地形(十文字扇状地)の扇端部に位置する。

三次調査区は前ノ田村上第1遺跡と隣接しており周辺一帯では北側の県道から南東方向に向け緩やかな傾斜が見られる(第3図)。

第4節 歴史的環境（第1図）

1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、A T上位はもとより、A T下位の資料の蓄積も進んでいる。大野寅夫氏の踏査による部分も大きく、白髭遺跡や旭ヶ丘遺跡などが知られている。また川南町教育委員会や近年の東九州自動車道関連による発掘調査によって後牟田遺跡、中ノ迫第1～3遺跡にて、A T下位よりナイフ形石器や局部磨製石器等の石器が出土し、礫群が検出されている。A T上位からは中ノ迫第1遺跡より、瀬戸内技法による国府型ナイフ形石器や接合資料を得ており、霧島遺跡では野岳・休場型細石刃核、小形のナイフ形石器、台形石器が出土している。

2. 縄文時代

縄文時代草創期の遺跡は、段丘面の付根部分を中心に散見され、国光原遺跡、霧島遺跡にて爪形文土器が、赤石・天神本遺跡、八幡第2遺跡にて隆帯文土器と、それに伴う石器が出土している。また、霧島遺跡では無文土器も出土している。縄文時代早期の遺跡は、町内に多数分布しており、中ノ迫第3遺跡、尾花A遺跡、尾花坂上遺跡にて集石遺構を多数検出している。特に中ノ迫第3遺跡では、貝殻条痕文土器に伴う集石遺構・炉穴が検出されている。縄文時代中期の遺跡は町内には見られない。縄文時代後期～晩期にかけての遺跡も少ないが、近年調査が行われた市納上第4遺跡にて、包含層から磨消縄文系の土器に伴い、有肩打製石斧、石錘等が出土している。市納上第2遺跡においてもまとまった数の石錘が出土している。また、尾花A遺跡では多数の竪穴建物跡が検出され、敲石・石錘・石鏃等がまとまった数出土している。

3. 弥生時代

弥生時代前期の遺跡は現段階では町内で確認されていない。中期の遺跡としては、藏座村遺跡が挙げられる。後期～終末期にかけて遺跡が増加する。尾花A遺跡、赤坂遺跡では、多数の竪穴建物跡が検出されており、集落が展開している。一方で、中ノ迫第2遺跡や前ノ田村上第1・2遺跡においては、数軒の竪穴建物跡等の遺構が確認されるのみで、集落展

開に差異がみられる。なお前ノ田村上第2遺跡が立地する十文字扇状地の両側縁部において、大迫遺跡で竪穴建物跡30数軒と周溝墓3基、下原遺跡で竪穴建物跡3軒と周溝状遺構6基確認されておりまとまった集落が展開している。名貫川付近に位置する東平下遺跡、国光原段丘面の縁辺部に位置する赤坂遺跡では、周溝墓が検出されている。

4. 古墳時代

古墳時代の遺跡は、湯牟田遺跡、国光原遺跡、西ノ別府遺跡、尾花A遺跡が挙げられ、多数の竪穴建物跡が検出されている。付近には川南古墳群や持田古墳群がある。古墳群の造営は前期から後期まで営まれる。前期では柄鏡形の大型前方後円墳が継続的に作られている。宮崎平野北部における首長墓系列の古墳造営は、4世紀代は小丸川流域の川南、持田古墳群において優勢であり、5世紀前半には西都原古墳群の男狭穂・女狭穂塚の造営に伴い、規模を縮小させていく動きが見られる。弥生時代後期～古墳時代にかけて集落増加、周溝墓の造営、持田・川南古墳群の造営という流れが見られる。

5. 古代以降

川南町には去飛（都農町）の駅と児湯（木城町高城）の駅を結ぶ古代の官道が想定されている。遺跡としては奈良時代後半～平安時代前期に推定される下垂門の蔵骨器を伴う火葬墓があげられる。中世の遺跡としては前ノ田村上第1遺跡と銀座第1遺跡等が確認されている。前ノ田村上第1遺跡においては区画溝を伴った掘立柱建物跡群を検出しており、多量の陶磁器類が出土している。また町内において「別府」等の字名が数多く残っており、中世の荘園が存在した可能性も高い。近世から現代にかけては大規模な開拓事業が進められた。

【参考文献】

川南町教育委員会1983『川南町史』

川南町教育委員会1983『川南町の埋蔵文化財 遺跡詳細分布調査報告書』

宮崎県埋蔵文化財センター2007「前ノ田村上第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第161集



0 ————— 5 km

1. 前ノ田村上第2遺跡 2. 前ノ田村上第1遺跡 3. 前ノ田遺跡 4. 赤坂遺跡 5. 国光原遺跡
6. 湯牟田遺跡 7. 把言田遺跡 8. 西ノ別府遺跡 9. 尾花A遺跡 10. 尾花坂上遺跡
11. 川南古墳群 12. 持田中尾遺跡 13. 持田古墳群 14. 山王古墳群 15. 野首第1遺跡
16. 野首第2遺跡 17. 南中原第2遺跡 18. 老瀬坂上第3遺跡 19. 下耳切第3遺跡
20. 北牛牧第3・5遺跡 21. 後牟田遺跡 22. 野稻尾遺跡 23. 中ノ迫第3遺跡
24. 中ノ迫第2遺跡 25. 中ノ迫第1遺跡 26. 下原遺跡 27. 大内原遺跡 28. 赤石・天神本遺跡
29. 虚空蔵免遺跡 30. 霧島遺跡 31. 蔵座村遺跡 32. 銀座第1遺跡 33. 八幡第2遺跡
34. 東平下遺跡 35. 立野第5遺跡 36. 尾立第3遺跡 37. 朝草原遺跡

第1図 周辺遺跡位置図 (S=1/100,000)

第II章 調査の方法と経過

第1節 二次調査の概要

前ノ田村上第2遺跡は、平成13年に事前調査を行っている。その際、調査区を道路と土地の区画線に沿ってA、B、C区と設定した。調査の結果A、B区では遺構・遺物が確認されたが、C区では確認されなかった。これを受け、一次調査はA、B区を対象とし、平成17年5月16日～11月30日にかけて行った。

その結果A区では、K-Ah上面で古墳時代の遺構を検出した。K-Ah下面では縄文時代草創期～早期の遺構・遺物、旧石器時代の遺構・遺物を確認した。B区では縄文時代草創期～早期の遺構、旧石器時代の遺構・遺物を確認した。ここでは、旧石器時代の遺物が出土遺物の9割を占めた。

調査区B、Cの東側隣接地は、過密植栽のため調査が実施出来なかったが、平成20年の過密植栽撤去に伴い二次調査が可能になった。

二次調査は、平成21年4月22日～4月24日にかけて実施した。ここでは土地の区画に沿って南側をD区、北側をE区とし、19本のトレンチ（730㎡）を設定した（第2図）。調査は主要地方道都農綾線に隣接するE区から開始した。E区は古代官道の遺構が想定されていたため道路から垂直方向に重機による10本のトレンチを設定し掘り下げを行った。各トレンチともアカホヤは残存していたが遺構・遺物は確認されなかった。次にD区の調査を行った。ここは一次調査B区の隣接地であることから旧石器時代の遺構・遺物の出土が想定された。精査の結果T5でAT上面より礫群を、T10でK-Ah上面より溝状遺構を1条、K-Ah下層より焼土を検出した（第2図）。これらの結果遺構・遺物が確認されなかったE区を除外し、D区のK-Ah上面からAT層までを対象に三次調査を行うことにした。

第2節 三次調査の経過

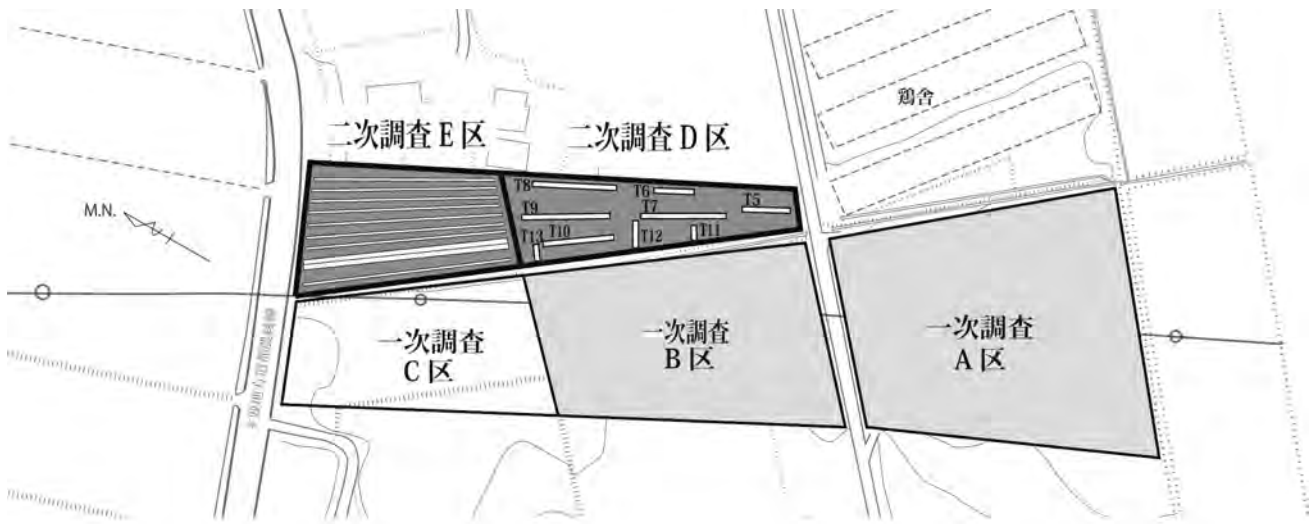
三次調査は、D区1,120㎡を対象に平成21年6月9日から9月11日にかけてI層（K-Ah）上面から下位にわたって行った。まず重機で表土を剥ぎ、I層上面で遺構検出を行った。その結果、調査区北側で溝状遺構2条と土坑1基を検出した。調査区南側はVI層で礫群を8基検出した。遺物の出土は調査区北側のIII層と調査区南側のV層～VI層で見られた。

調査の結果、調査区北側において時期不明の遺構と石鏃など縄文時代草創期～早期の遺物が数点出土した。調査区南側においてAT上面から礫群や剥片尖頭器など後期旧石器時代の遺構・遺物が確認された。

整理作業は平成21年10月1日から埋蔵文化財センターで実施した。作業内容は水洗、注記、石器の接合、実測を行った。また礫については水洗、注記、接合、計測を行った。遺物の実測については主に剥片を埋蔵文化財センターで行い、その他の石器実測については株式会社埋蔵文化財サポートと株式会社九州文化財研究所へ、自然科学分析調査として炭化材の年代測定分析をパリオ・サーヴェイ（株）の委託により行った。

【三次調査日誌抄録】

- 6月8～9日 進入路及び駐車場設置した。
- 6月9日 調査事務所・休憩棟等を設置した。
- 6月9～16日 重機による表土剥ぎを実施した。
- 6月18～19日 グリッド杭を設定した。
- 6月22日 発掘作業員による調査を開始した。
- 6月29日 溝状遺構を検出した。
- 7月7～8日 重機によるアカホヤ除去を行った。
- 7月10日 調査区東側にトレンチを入れ土層堆積状況を確認した。
- 7月15日 礫群を検出した。
- 8月4日 空撮を実施した。
- 8月5日 台風8号に備え耐風養生を行った。
- 8月28日 コンタ図を作成した。
- 9月7～11日 埋め戻しを行い、調査を終了した。



第2図 調査トレンチ配置図 (1/2,000) 0 50m



第3図 周辺遺跡図 (S=1/25,000) 0 500m

第III章 三次調査の記録

第1節 調査の概要

本遺跡では後期旧石器時代、縄文時代草創期～早期にわたる2つの時期の文化層を確認した。遺構・遺物の平面分布は時期により異なり、旧石器時代の遺構・遺物は調査区南側でまとまって確認され、縄文時代草創期～早期の遺物は調査区北側で散漫に分布して出土している。各時期における遺構や遺物と出土層位は下記の通りである。

後期旧石器時代

遺構：礫群8基（Ⅵ層）

遺物：剥片尖頭器、ナイフ形石器、角錐状石器、
削器、彫器、敲石、石核、剥片（Ⅴ～Ⅵ層）

縄文時代

遺構：土坑7基

遺物：石鏃、剥片、石核（Ⅲ層）

その他の時代

遺構：土坑1基、溝状遺構2条（Ⅰ層上面）

第2節 基本層序

前ノ田村上第2遺跡(三次)の基本層序は第1表に示すとおりである。本遺跡の遺構・遺物包含層はⅡ層が縄文時代草創期～早期、Ⅴ～Ⅵ層が後期旧石器時代にそれぞれ該当する。

鍵層としてはⅠ層の鬼界アカホヤ(K-Ah)、Ⅴ層の小林軽石(Kr-Kb)を含む層、Ⅶ層の始良Tn火山灰(AT)を確認した。

土層の堆積状況は一様ではなく南北で違いが見られる。調査区全体が、開墾等によって削平を受けており調査区中央から北側ではⅠ層上面が、調査区南側ではⅥ層上面が耕作により影響を受けていた。調査区中央～北側のK-Ah下位層では遺構、遺物ともに確認された数は少なかった。

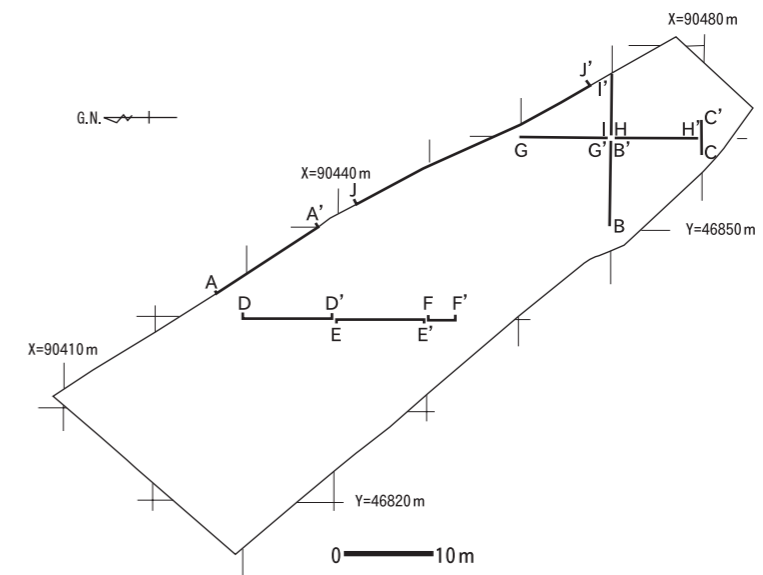
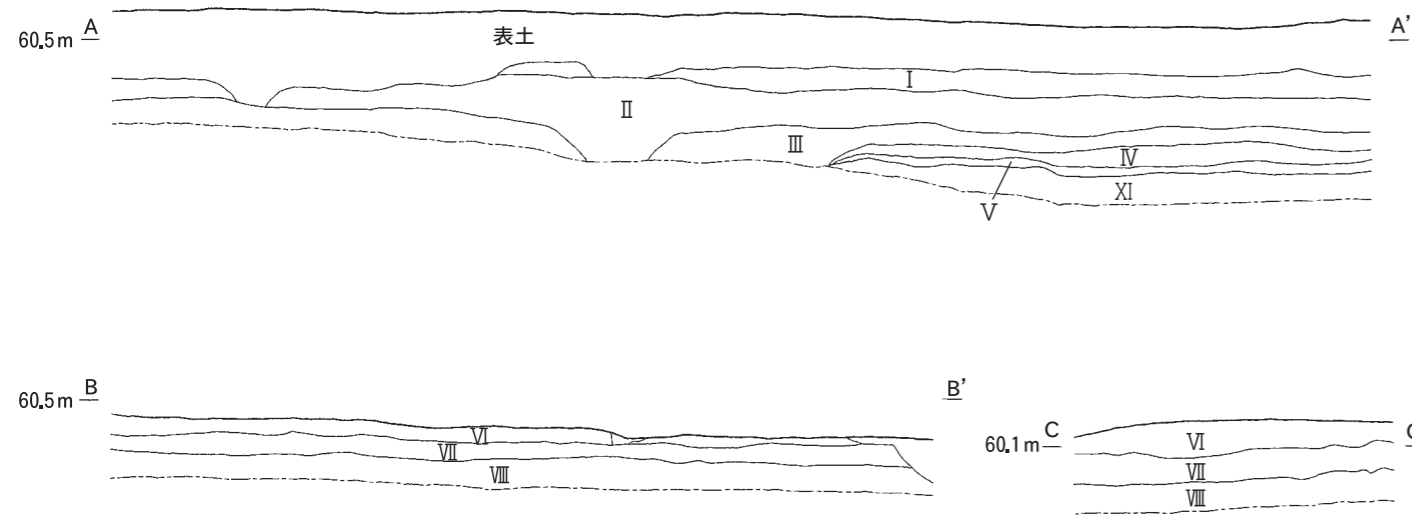
調査区南側ではAT上位のⅥ層から多数の遺構、遺物を確認した。ATは調査区南側でのみ堆積を確認している。

AT下位層は、調査区南側でのみブラックバンドの堆積が見られ、調査区全体では水成堆積と思われる粘質性の高いⅪ層と礫層のⅫ層である(第5図)。

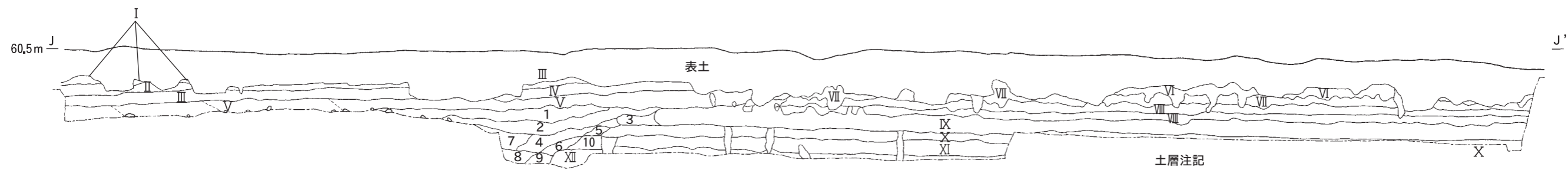
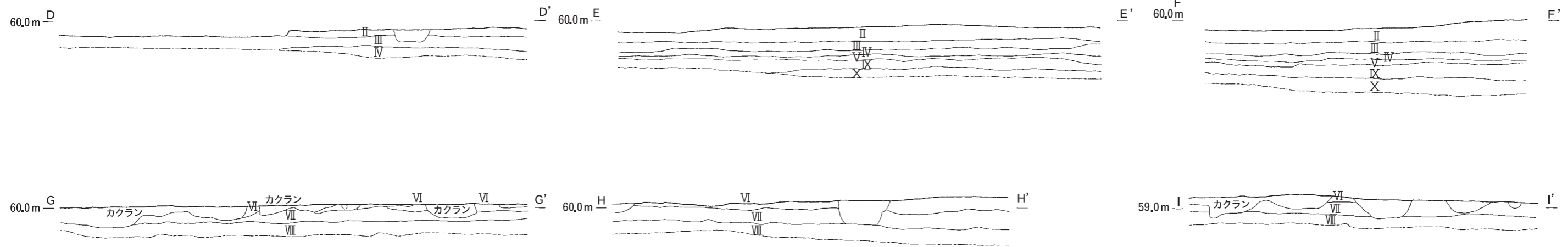
調査区北側では、風倒木や土石流と思われる痕跡がいくつか見られた。また水成堆積と思われる粘質土の堆積も確認したことから旧石器から縄文草創期～早期の期間で調査区内に河川が流れていた可能性が考えられる。

第1表 基本層序

層名	表土	所見 耕作土
Ⅰ層	黄褐色土(K-Ah)	10YR5/6 締まり硬く、粘性無し。調査区北側にのみ堆積
Ⅱ層	黒褐色土(MB0相当)	10YR2/3 締まり硬く、やや粘性あり。
Ⅲ層	暗褐色土(ML1相当)	10YR3/3 締まり硬く、やや粘性あり。
Ⅳ層	黒褐色土	10YR2/3 締まり硬く、やや粘性あり。
Ⅴ層	暗褐色土(Kr-Kbを含む)	10YR3/4 締まりあり、やや粘性あり。1mm程度のKr-Kbの粒子が少量混じる。
Ⅵ層	暗褐色土(MB1相当)	10YR3/4 やや締まり硬く、粘性あり。
Ⅶ層	AT	10YR4/4 やや締まり硬く、粘性無し。調査区南側にのみ堆積
Ⅷ層	黒褐色土(MB2～3相当)	10YR2/2 締まり硬く、1mm以下の白色粒を多く含む。
Ⅸ層	暗褐色土	10YR3/4 やや締まり軟く、やや粘性高い。
Ⅹ層	褐色土	10YR3/3.5 締まりあり、やや粘性高い。
Ⅺ層	黄褐色土	10YR4.5/4 水成堆積層 しまり軟く、粘性高い。
Ⅻ層	礫層	尾鈴山酸性岩類の隙間は粘性のある黄褐色土である。



第4図 三次調査区全体図 (1/800)



- 土層注記**
- 1 : 暗褐色土 (10YR3/2.5) しまりあり、粘性あり。2cm程度の明黄褐色ブロックをやや多く含む
 - 2 : 褐色土 (10YR4/4) しまりあり、性あり。明黄褐色ブロックをやや多く含む
 - 3 : にふい黄褐色土 (10YR4/3) しまりあり、粘性やや強い。明黄褐色ブロックをやや多く含む
 - 4 : 褐色土 (7.5YR4/5) しまりあり、粘性強い
 - 5 : 黄褐色土 (10YR4.5/6) しまりあり、粘性強い
 - 6 : 暗褐色土 (10YR3/4) しまりやや柔らかく、粘性強い
 - 7 : 褐色土 (7.5YR4/4) しまりやや柔らかく、粘性強い。小礫をわずかに含む
 - 8 : 明黄褐色土 (10YR6/8) 砂礫層
 - 9 : 黄褐色土 (10YR5/8) 砂礫層
 - 10 : 褐色土 (10YR4/3.5) しまりやや硬く、粘性強い

第5図 土層断面図 (S=1/80)

第3節 旧石器時代の遺構と遺物

旧石器時代の遺構・遺物は調査区南東側に集中しており、VI層を中心に確認した。遺構は、礫群を8基検出した。遺物は剥片尖頭器やナイフ形石器、剥片が多く出土した。以下詳細を述べる。

遺構（第6図～第8図）

調査区南側でVI層から8基の礫群を検出した。SI7の下からSI8が検出されたことから時期の異なる礫群の存在が確認され、礫群の周辺からは石器が多数出土した。

構成礫は、全て尾鈴山酸性岩類である。検出した礫群は、全て掘込みが無く、炭化物も含まれていなかった。礫の密度はSI1、SI2、SI4、SI7、SI8が密集しており、他は散漫に分布している。

SI1（第7図）は1.2m×2.3mの範囲に礫が密集して確認された。礫の数は16個で総重量は約8.9kgである。完形の礫が7点見られ、構成礫の50%が赤化していた。接合関係では遺構内で2点が接合し、一次調査で検出したSI14の礫と1点が接合した。黒色付着物のある礫が2点出土している。

SI2（第7図）は1.2m×2.3mの範囲に密集して確認された。礫の数は23個で総重量約12.6kgである。完形の礫が15点見られ、構成礫の約85%が赤化し、完形の礫は12点が赤化していた。接合関係は遺構内で3点が接合し、内2点が完形となった。黒色付着物のある礫が2点出土している。

SI3（第7図）は0.7m×0.3mの範囲に散漫に分布していた。礫の数は5個で総重量が約4kgである。完形の礫が1点見られ、構成礫の全てが赤化していた。

SI4（第7図）は1.6m×1.4mの範囲に散漫に分布していた。礫の数は26個で総重量は約5.7kgである。完形の礫が3点見られ、構成礫の約90%が赤化していた。接合関係は遺構内で3点が接合した。黒色付着物のある礫が1点出土している。

SI5（第7図）は2.9m×0.8mの範囲に散漫に分布していた。礫の数は16個で総重量約7.4kgである。完形の礫が7点見られ、構成礫の56%が赤化していた。接合関係は遺構内で2点が接合し、SI7の礫と1点が接合した。黒色付着物のある礫が1点出土している。

SI6（第6図）は2.7m×1.5mの範囲に散漫に分布していた。礫の数は14個で総重量約3.9kgである。完形の礫が8点見られ、構成礫の約65%が赤化している。SI6は分布図のみである

SI7（第8図）は2.9m×2.0mの範囲に密集して確認された。礫の数は68個で総重量約14.4kgである。完形の礫が5点見られ、構成礫の76%が赤化していた。接合関係は遺構内で11点が接合し、内1点が完形となった。黒色付着物のある礫が12点出土している。

SI8（第8図）は3.8m×3.1mの範囲に密集して確認された。礫の数は81個で総重量約42.9kgである。完形の礫が29点見られ、構成礫の74%が赤化していた。接合関係は遺構内で11点が接合し、内2点が完形となった。

遺物（第9～21図）

遺物は遺構と同様、調査区南側でのみVI層を中心にして石器が出土しており、調査区中央～北側では出土していない。特に調査区の南西に集中して出土している（第9図）。出土した遺物は剥片が多く、剥片尖頭器などの製品や石核の出土は少なかった。

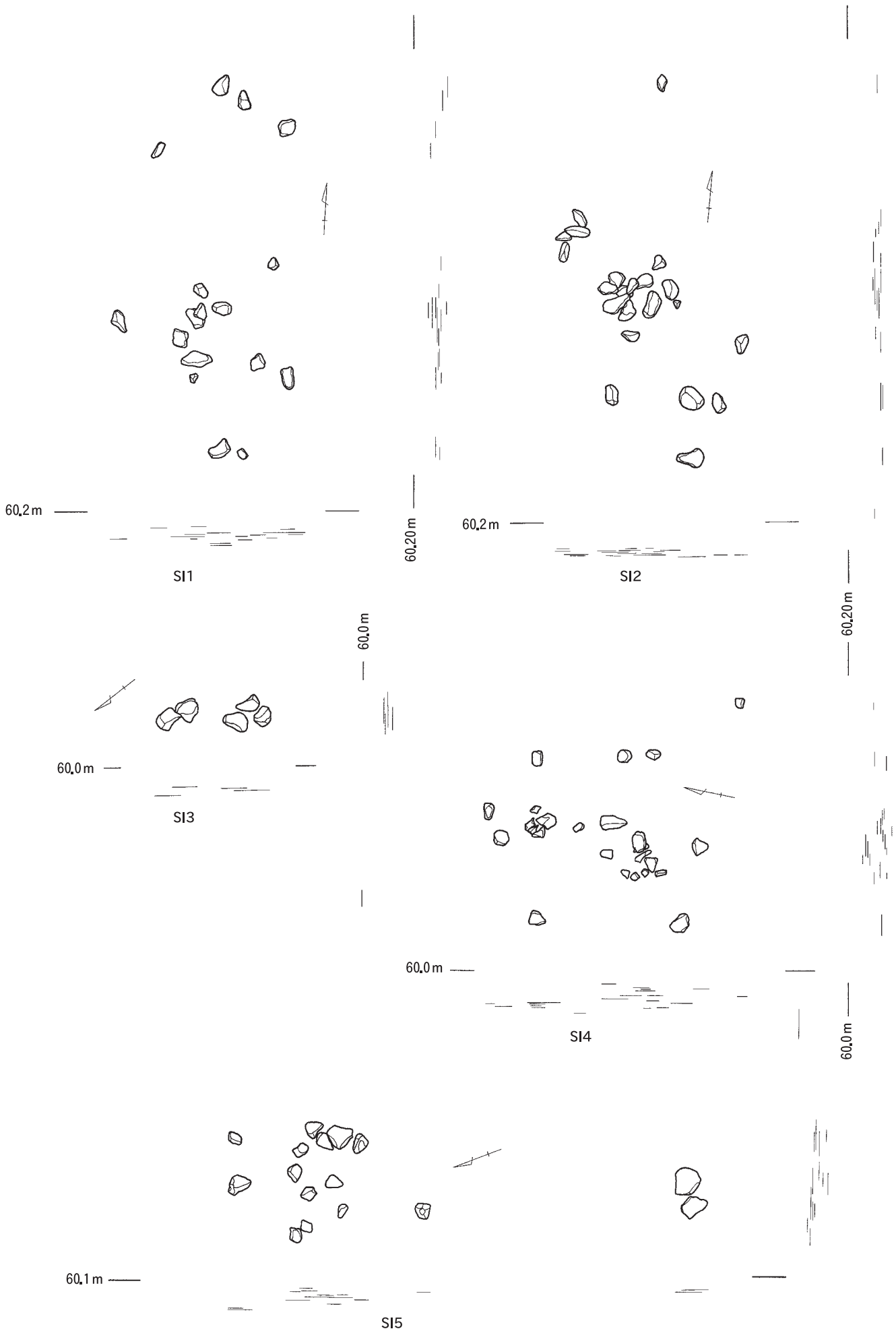
石器の出土状況を石材別に見ると石材A～C、E～Gは散漫に分布している。石材Dは、ほとんどが散漫に分布しているが、一部狭い範囲でまとまって出土している。石材別の出土状況はほとんどの石材が散漫に分布して出土しており、分布の差異はあまり見られなかった（第10図）。

以下、石器についての詳細を述べる。

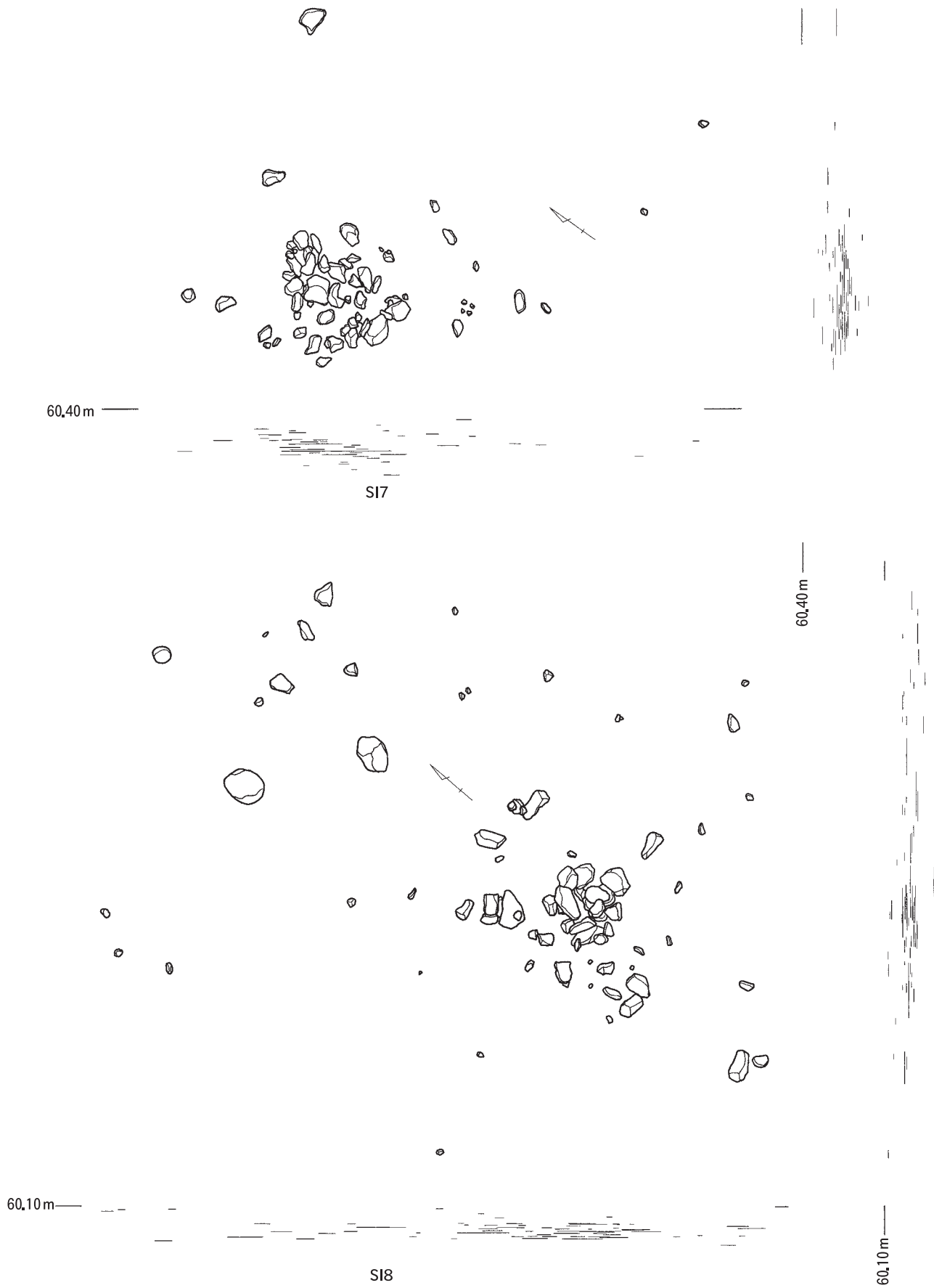
1～13は剥片尖頭器でいずれも縦長剥片を素材としている。剥片の形状を生かしながら基部加工と側縁に剥離調整を施したもの（一類）と、基部加工のみ施したもの（二類）が見られた。一類の中に3～5といった入念に刃部の剥離調整を施しているものが見られる。作業面調整を施された剥片を素材とするものが多く、基部に稜を残すものは少ない。剥離調整は裏面側から施されており、打面を残すものが見られる。11は先端の欠損面に剥離調整を施しているもので、再利用品の可能性が考えられる。使用されている石材は、A～Eの緻密なものが占めている。



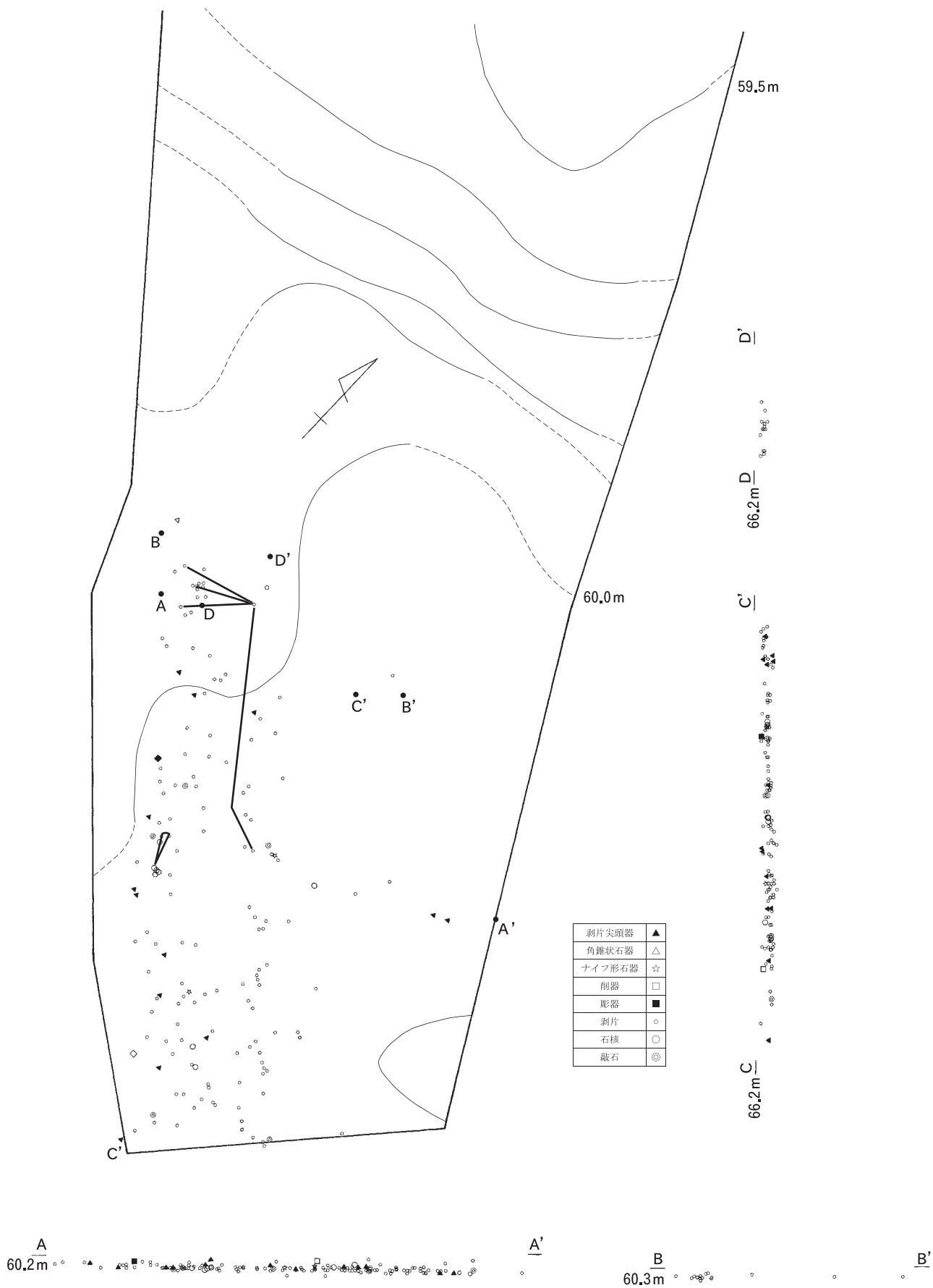
第6図 礫群分布図 (S=1/200)・土層断面図 (S=1/40)



第7図 礫群平面・垂直分布図 (1) (S=1/30)



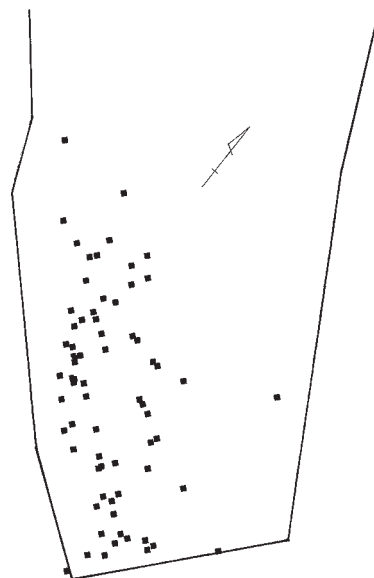
第8図 礫群平面・垂直分布図(2) (S=1/30) 0 ————— 1m



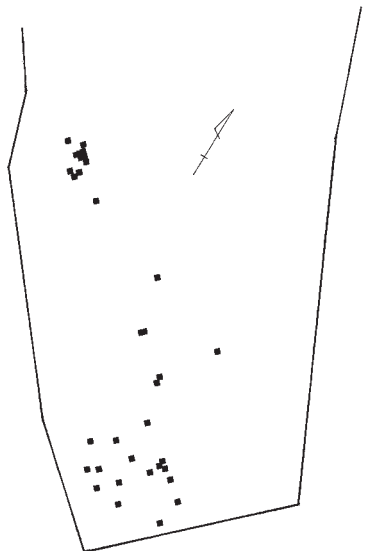
第9図 出土遺物分布図 (S=1/200)

0 ————— 5m

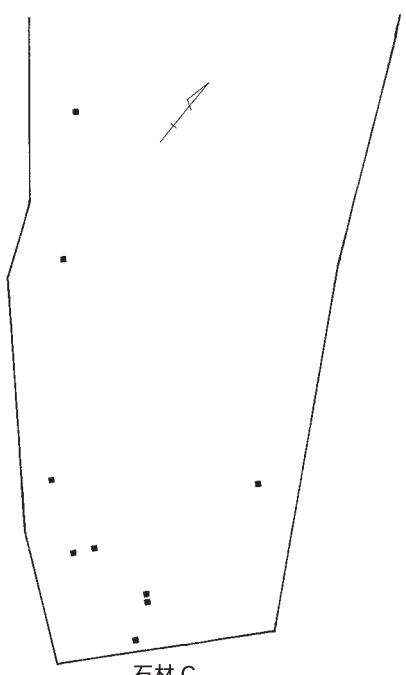
14は角錐状石器である。先端と基部を同じように細く尖らせた形をしている。15～17はナイフ形石器である。15は先端部、17は基部である。17は形状と大きさから槍先として使用された可能性が考えられる。18は削器である。剥片尖頭器と同様に縦長剥片を素材とし一側縁に刃部加工を施している。石材Iを使用している。19、20は彫器である。縦長剥片を素材として中心軸に平行に槌条剥離を施して刃部を形成している側刃形彫器である。21は二次加工剥片である。側縁に加工が施してあることから削器の未製品とも考えられる。22～121は剥片である。ほとんどが縦長剥片で横長剥片はわずかである。石材はA、Bが多く使用されている。122～130は石核である。これらの石核には多量に出土した縦長剥片を剥いだと思われる石核は見られなかった。131～135は敲石である。132、133の石材はFが使用されている。132・134は両端部に、133は下部に敲打痕を残す。131・135は上部が欠損しており、使用痕は不明確である。136～141は接合資料である。今回の調査で出土した剥片6点と一次調査で出土した接合資料1が接合した。136は側面に裏面側から二次加工を施されている。137は側面に礫面を残している。142～145は接合資料である。石核1点と剥片3点が接合した。



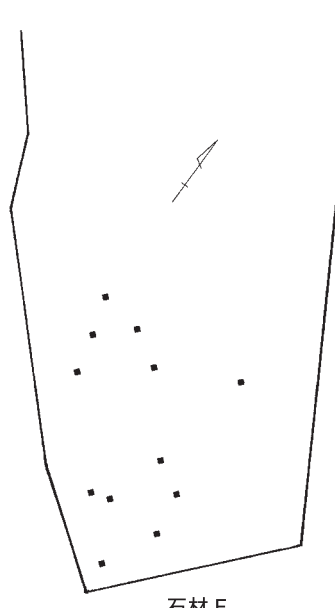
石材 A,B,E



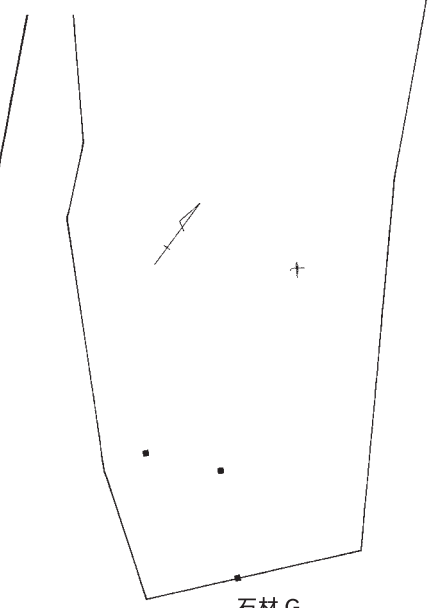
石材 D



石材 C

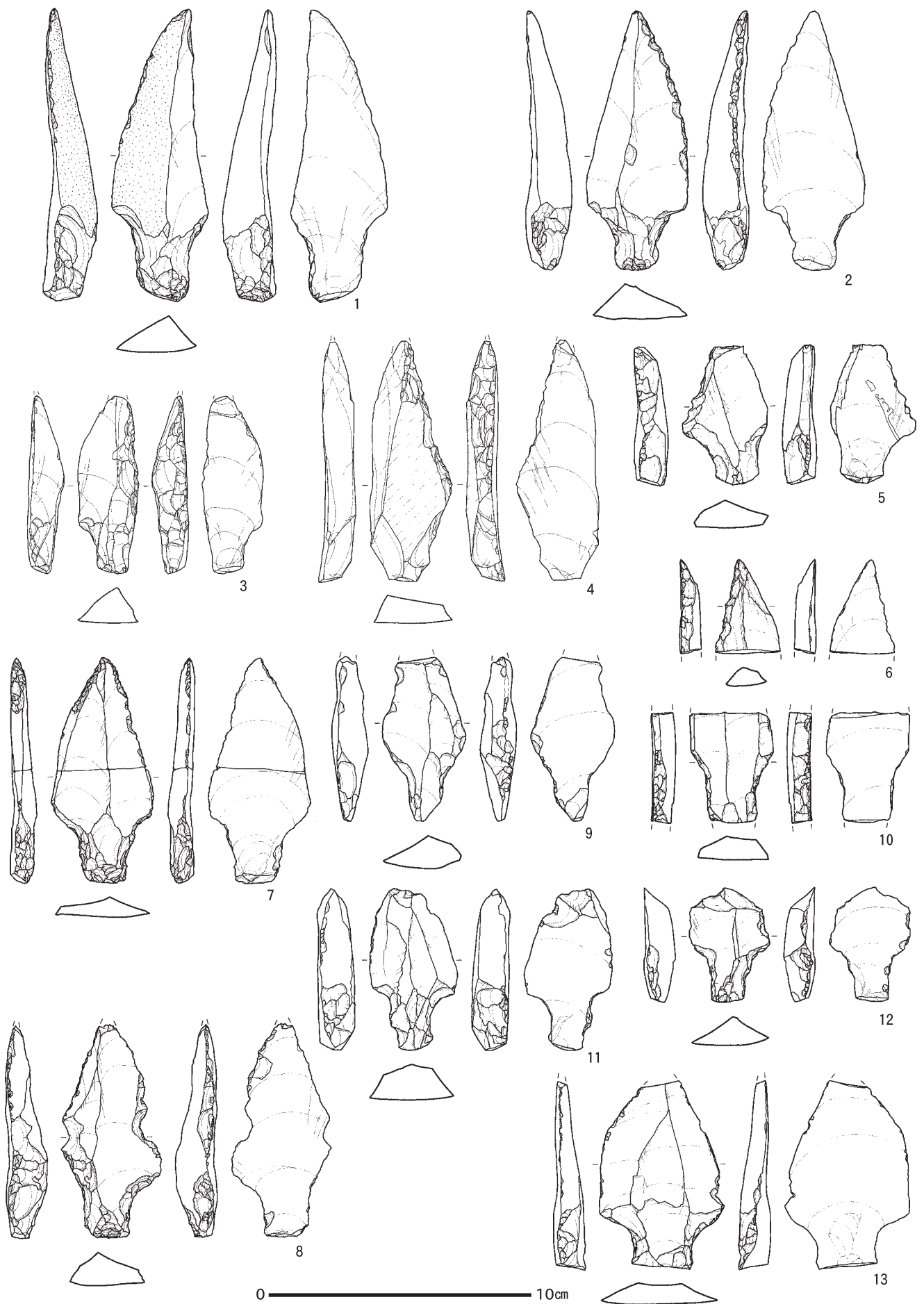


石材 F

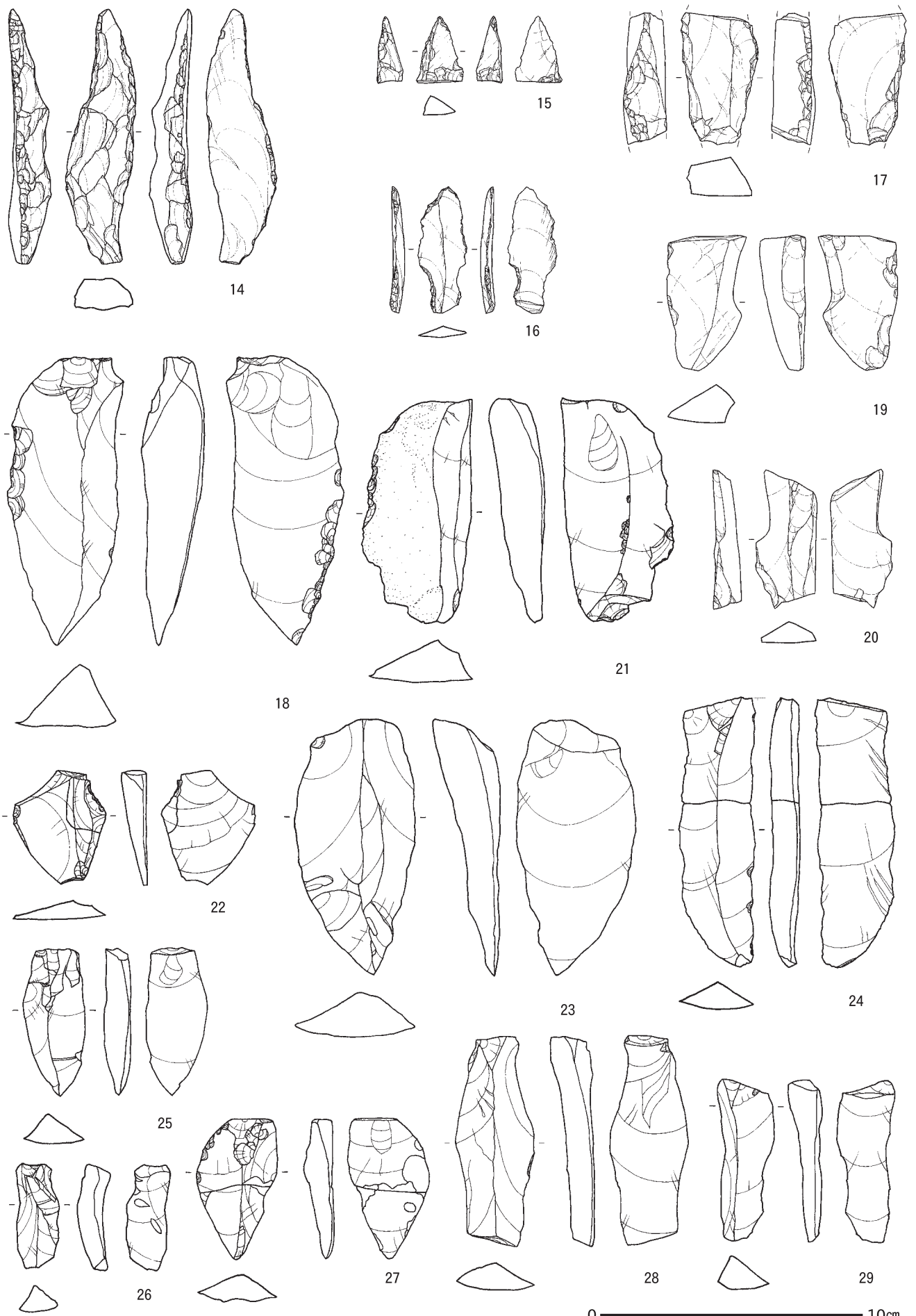


石材 G

第10図 石材別出土遺物分布図 (S=1/400) 0 10m

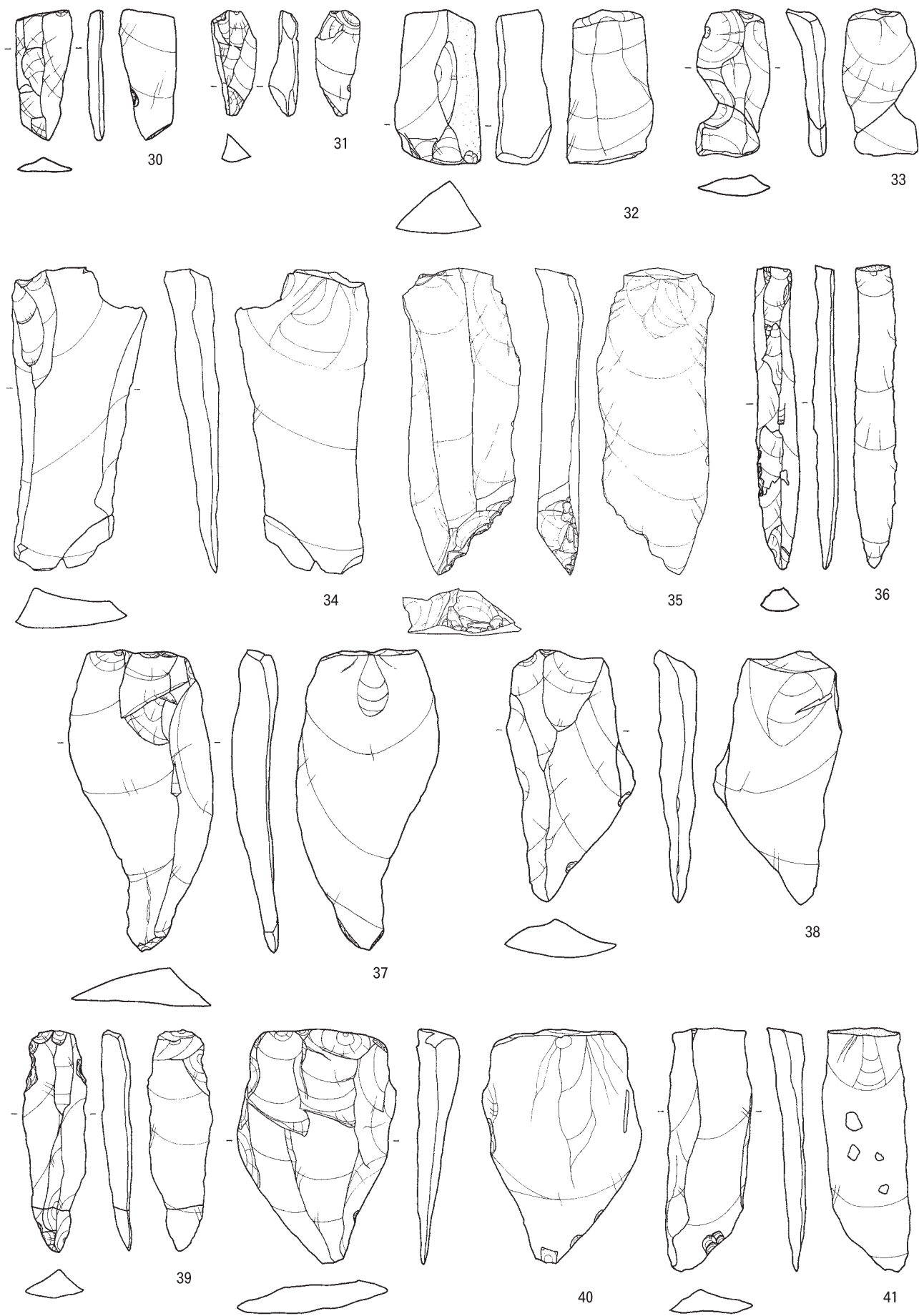


第11图 石器实测图1 (S=1/2)

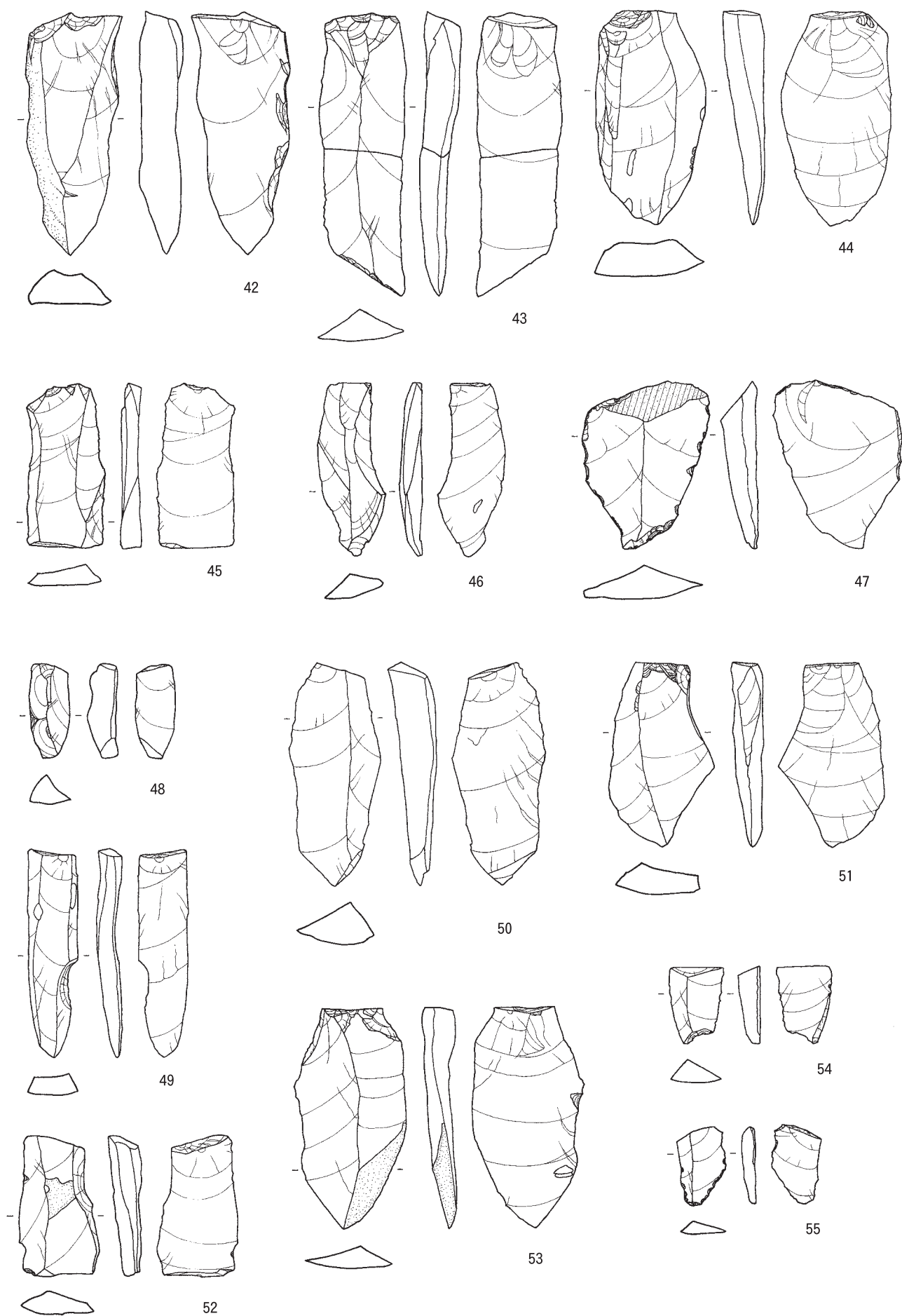


0 ————— 10cm

第12図 石器実測図2 (S=1/2)



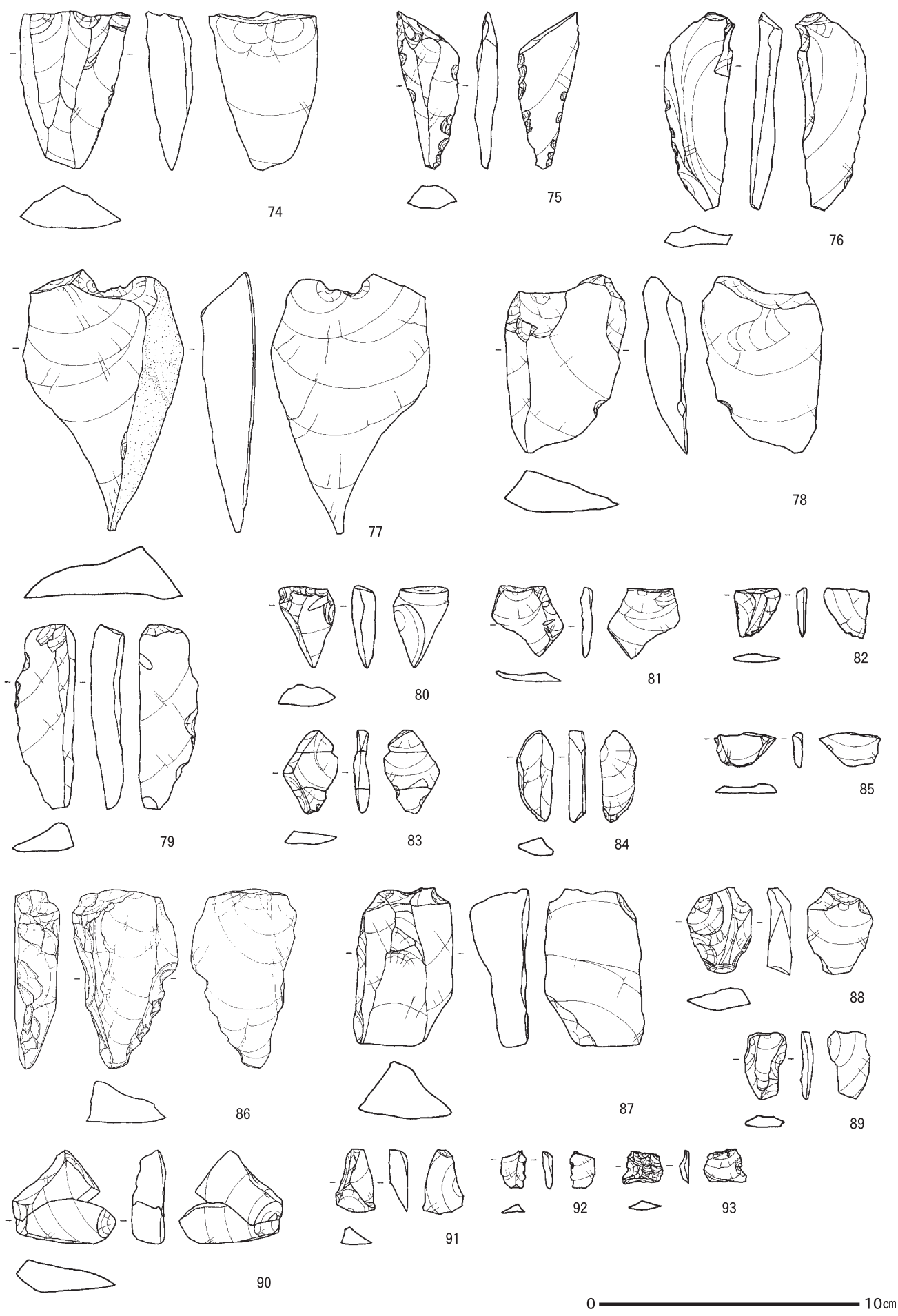
第13图 石器实测图3 (S=1/2)



第14图 石器实测图4 (S=1/2)



第15图 石器实测图5 (S=1/2)

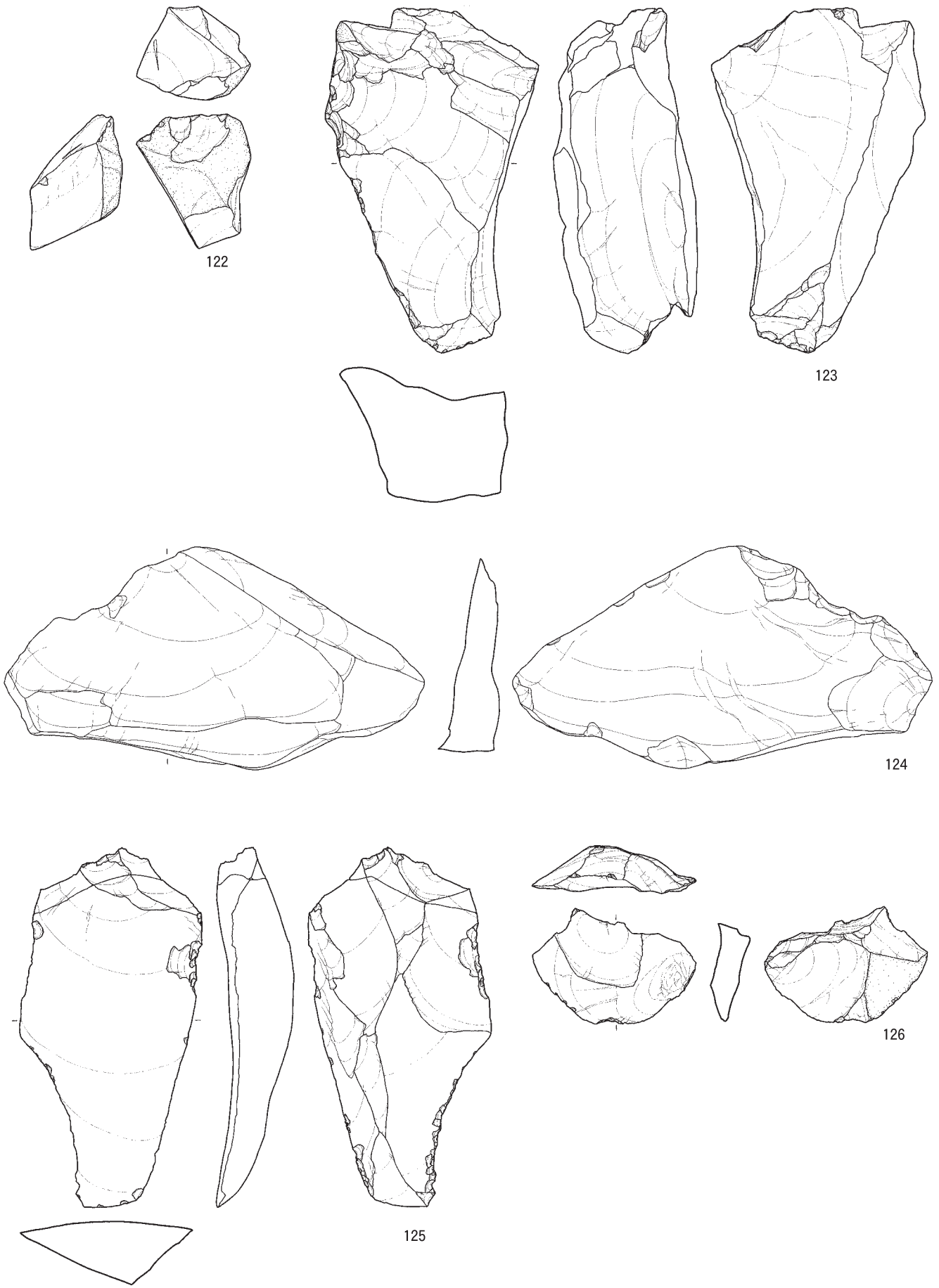


第16图 石器实测图6 (S=1/2)



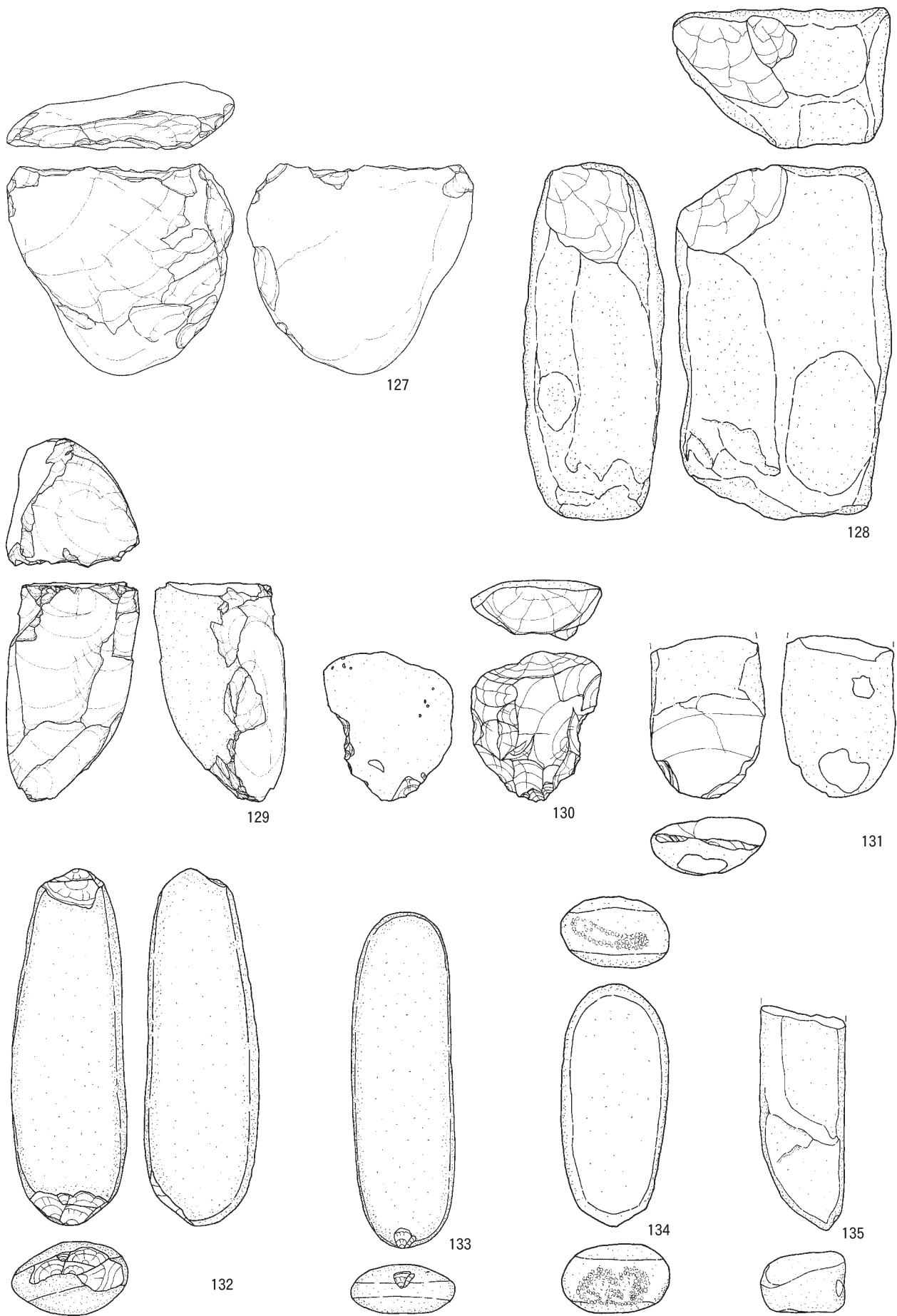
0 ————— 10cm

第17图 石器实测图7 (S=1/2)

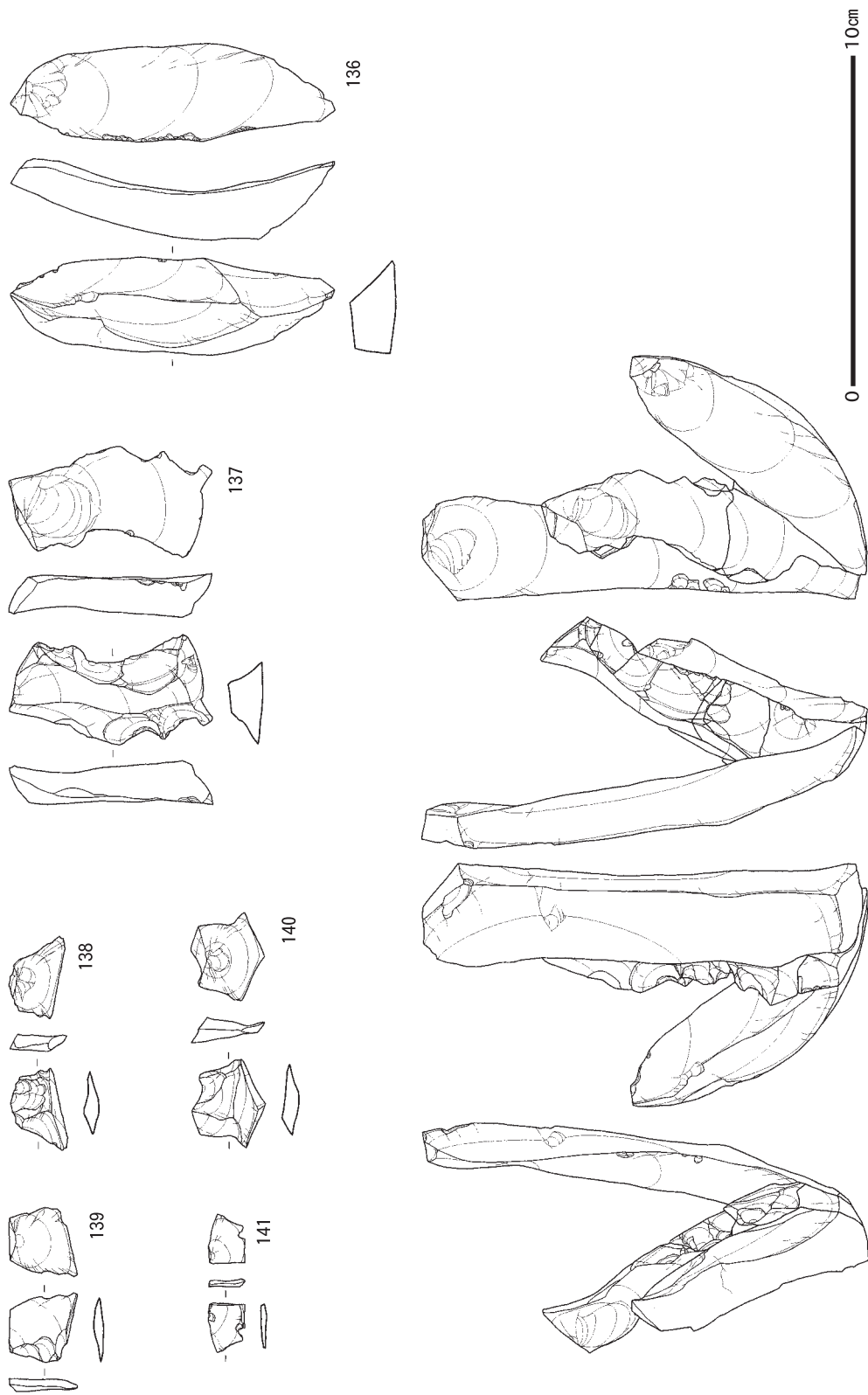


0 ————— 10cm

第18图 石器实测图8 (S=1/2)

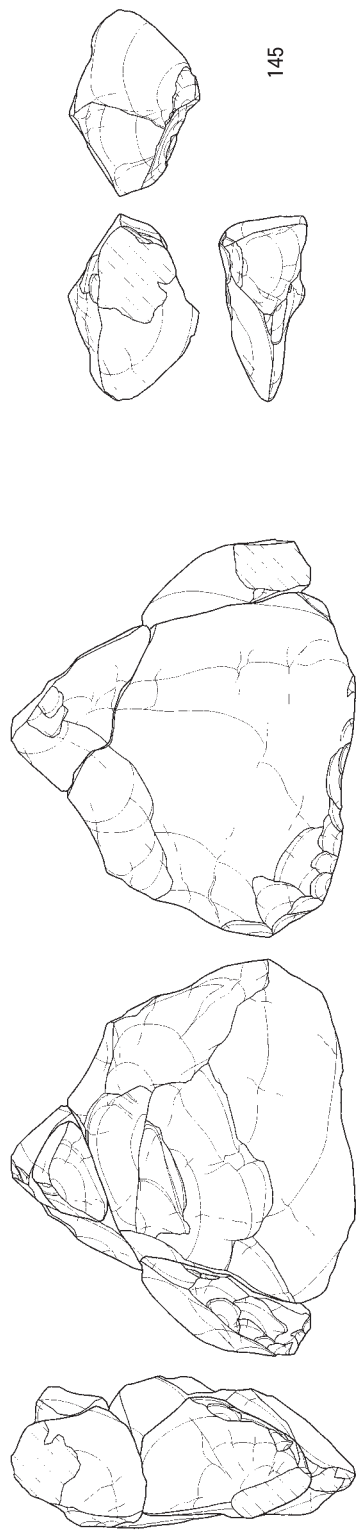
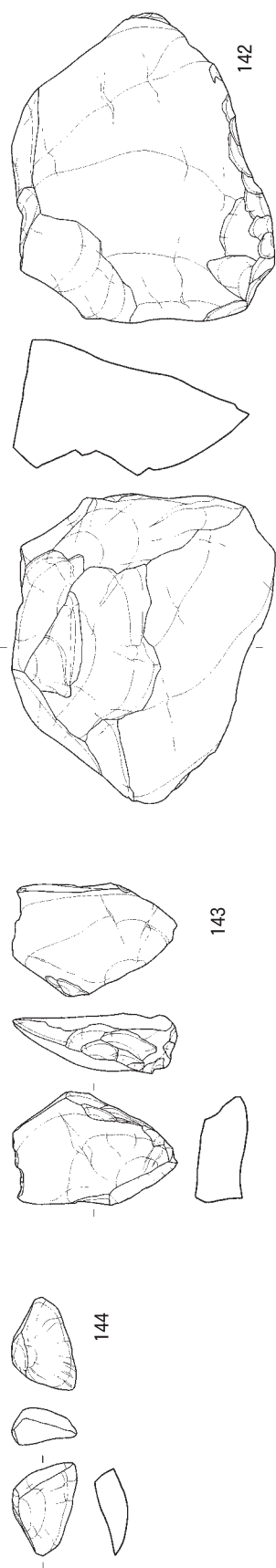


第19図 石器実測図9 (S=1/2)



接合資料 1

第20図 石器実測図10 (S=1/2)



接合資料 2



第21図 石器実測図11 (S=1/2)

第4節 縄文時代の遺構と遺物

遺構は、調査区南側で6基、中央で1基の土坑を検出した(第22図)。遺物は、Ⅲ層から石鏃、剥片、石核が北側で少数出土した。以下詳細を述べる。

遺構

南側と中央で合計7基の遺構を検出したが、土坑に伴う遺物の出土はなかった。検出した土坑は、上層からの掘込みの可能性が考えられた。放射性炭素年代測定の結果と土坑の埋土にⅡ、Ⅲ層と類似しているものが見られたことから、縄文時代草創期～早期に伴う遺構の可能性が高いと考えた。

土坑

SC1(第23図)は長径0.21m、短径0.18mの楕円形で、規模は小さい。深さは27cmとやや浅く、ほぼまっすぐに掘り込まれている。

SC2(第23図)は長径0.3m、短径0.25mの楕円形で規模は小さい。深さは55cmとやや掘込みが深くほぼまっすぐに掘り込まれている。

SC3(第23図)は、長径0.39m、短径0.24mの楕円形で規模は小さい。深さは27cmとやや浅い。

SC4(第23図)は長径0.64m、短径0.37mの不整形で、規模は小さい。深さは52cmとやや掘込みの深い土坑である。

SC5(第23図)は、攪乱によって平面プランの半分程度がなくなっているが遺存する部分から長径0.6mの楕円形を呈していたと想定される。深さは19cmと掘込みの浅い土坑である。

SC6(第23図)は、長径0.92m、短径0.62mの楕円形で、規模はやや大きい。深さは20cmと浅い。埋土はすべて焼土で、炭化材を含んでおり炉穴の可能性が考えられる。一部に樹根による攪乱が見られた。

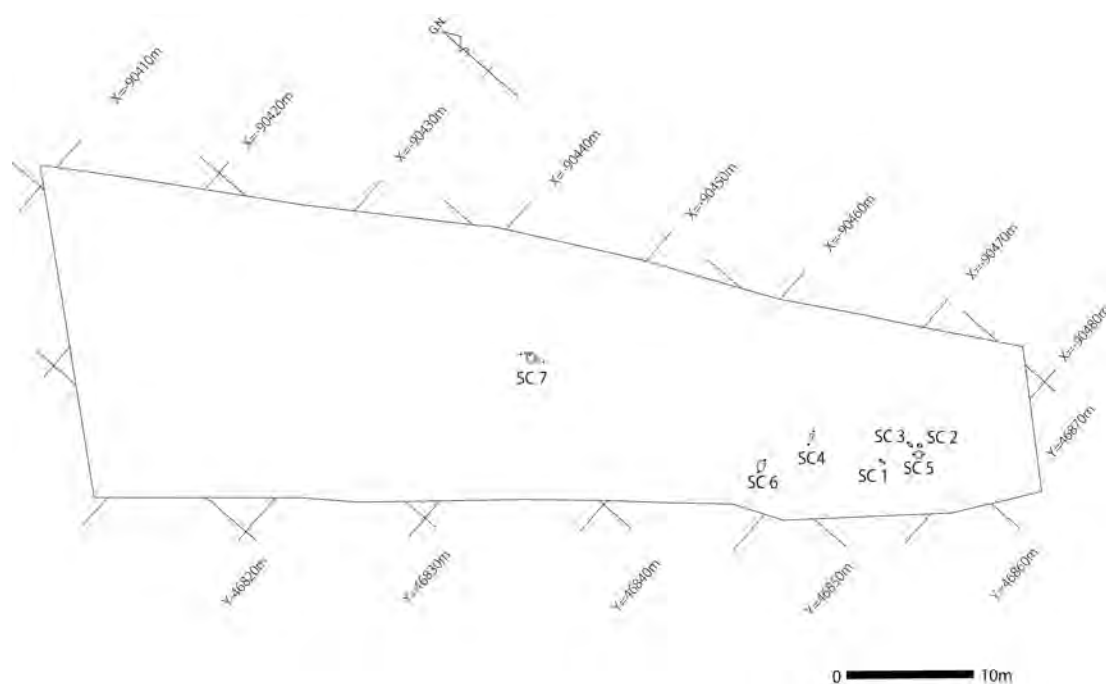
SC7(第23図)は、長径1.39m、短径0.88mの不整形で、規模はやや大きい。深さ21cmの浅い平場と深さ56cmのピット状のやや深い掘込みをもつ。

遺物(第25図)

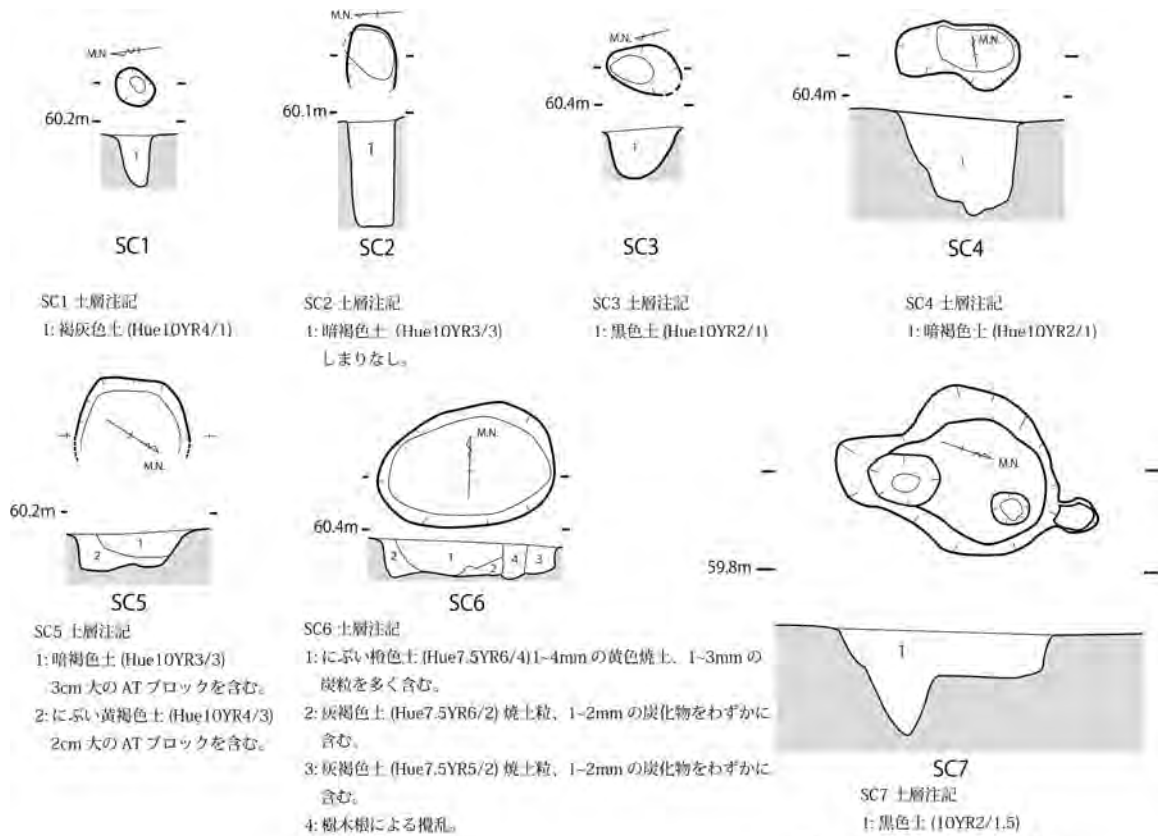
遺物は調査区北側のⅢ層から石器が散漫に出土している(第24図)。石鏃や剥片が少量出土したがそれらの素材となる石核の出土はなかった。

以下、石器についての詳細を述べる。

146～149は石鏃で、平基のもの(147)と挟りが浅いもの(146、148、149)が見られた。150は剥片で石材は黒曜石bを使用している。151は細石刃核である。黒曜石aを使用している。153は磨石である。明確な擦痕は確認できなかったが、形状や大きさから磨石と判断した。

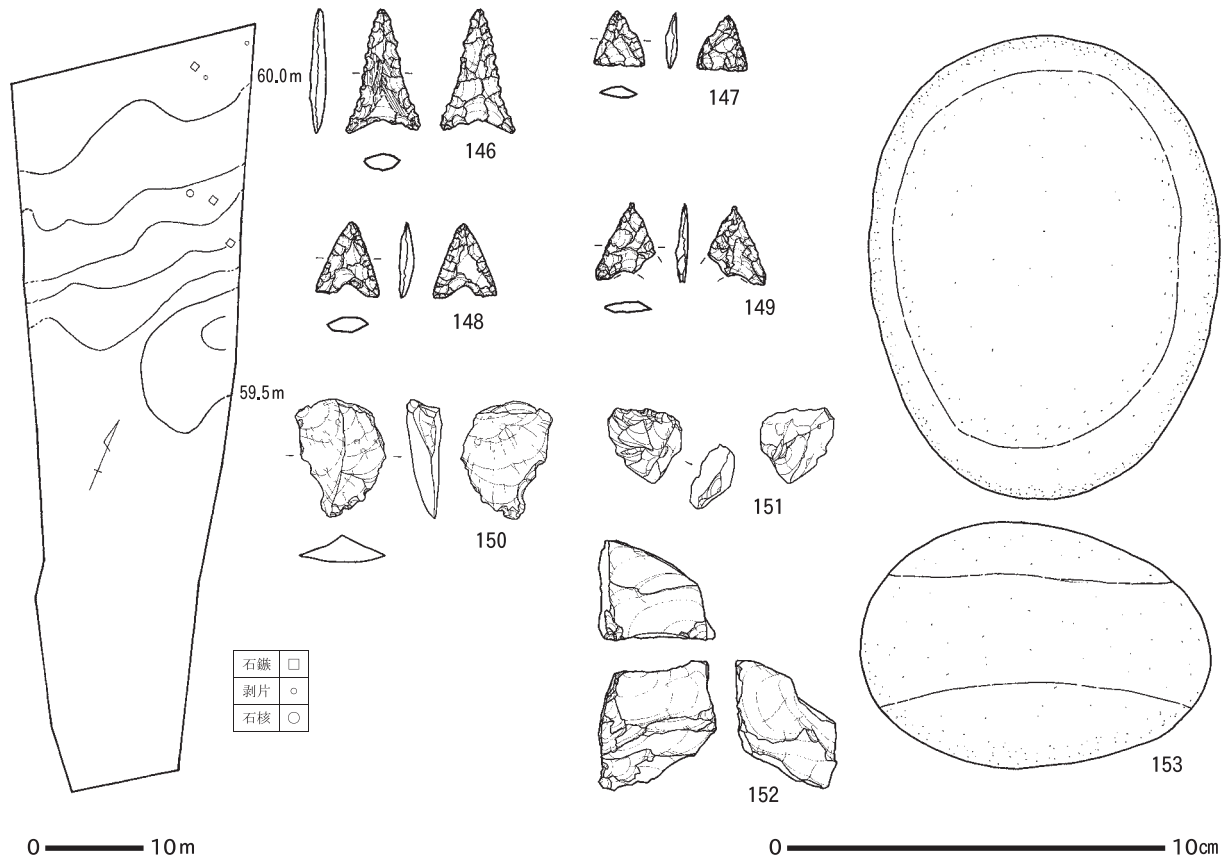


第22図 縄文時代遺構分布図(1/600)



第23図 遺構実測図 (1/40)

0 1m



第24図 出土遺物分布図 (S=1/800)

第25図 石器実測図 (S=1/2)

第5節 アカホヤ降灰以降の遺構

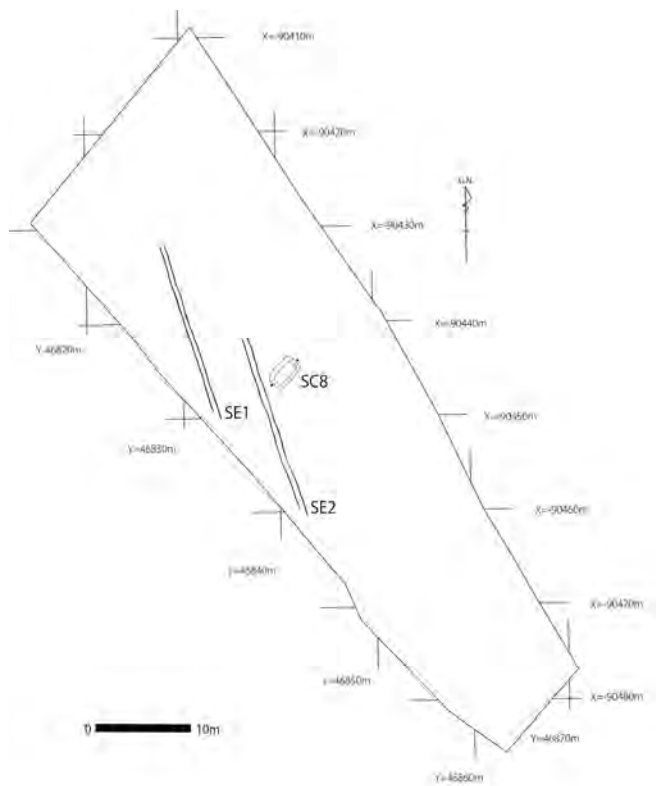
遺構は、溝状遺構2条と土坑1基を調査区北側から中央で検出した（第26図）。

遺構

調査区北側と中央で合計3基の遺構を検出したが、遺構に伴う遺物の出土はなかった。

土坑（第27図）

SC8は長径3.38m、短径2.02mの長方形で、規模は大きい。深さ52cmとやや掘込みの深い土坑である。床面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。遺物の出土はなかった。



第26図 時期不明遺構分布図（1/800）

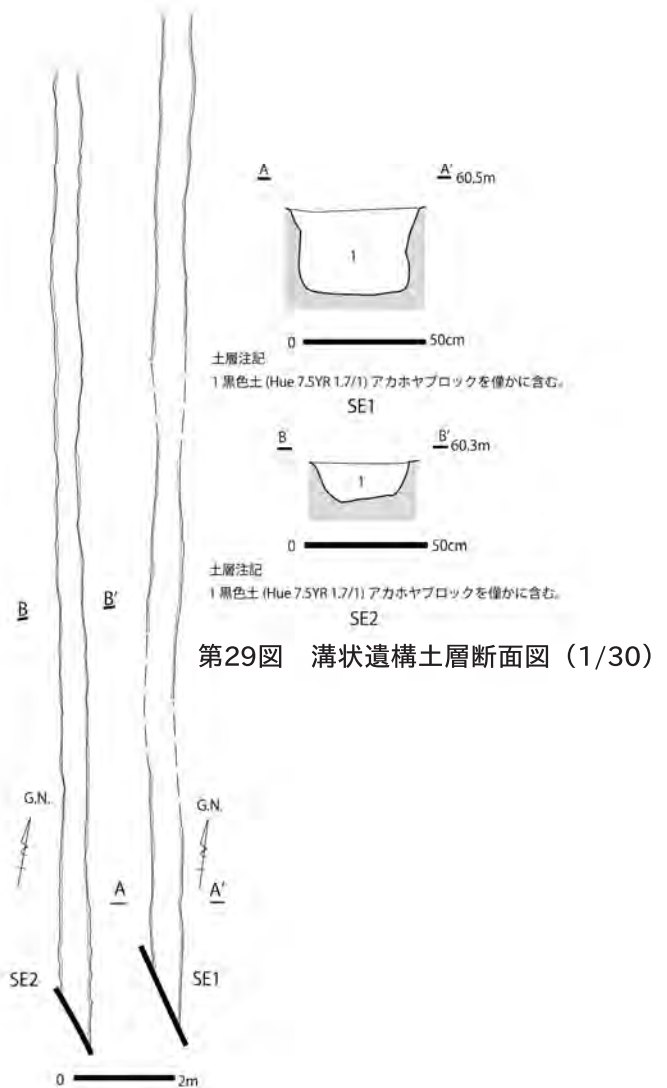


第27図 土坑実測図（SC8）（1/80）

溝状遺構

SE1（第28図）は調査区北側のI層検出面で確認された溝状遺構である。規模は長さ約15m、最大幅32cm、最大深さ26cmを測る。埋土は黒色土で、遺物の出土がなかったため、時期不明の遺構とした。

SE2（第28図）はSE1と平行する形で検出された溝状遺構である。検出面において長さ約15m、最大幅30cm、最大深さ20cmを測る。埋土は黒色土で、埋土中からの遺物の出土はなかった。



第29図 溝状遺構土層断面図（1/30）

第28図 溝状遺構実測図（1/150）

第Ⅳ章 自然科学分析

今回の調査で縄文時代草創期～早期の文化層で検出したSC6から炭化材が出土したが、土器は出土しなかった。そこで遺構の年代を明らかにするため炭化材の年代測定を行うことにした。以下はパリノ・サーヴェイ（株）の分析報告である。

はじめに

前ノ田村上第2遺跡（川南町）は、台地に挟まれた標高約60mの沖積地内の微高地上に立地する。今回の発掘調査により、旧石器時代の石器類（剥片尖頭器・ナイフ形石器等）、縄文時代の遺構（土坑等）や遺物（石鏃）が確認されている。今回の分析調査では、縄文時代の遺構から出土した炭化材を対象として、遺構の構築・使用時期に関する資料を得るために、放射性炭素年代測定を実施した。

1. 試料

試料は、SC6から出土した炭化材2点（炭1,2）である。

2. 分析方法

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(Ⅱ)と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC

Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIBREV 6.00（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期5730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。いずれも炭化材を試料としていることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

3.結果

放射性炭素年代測定結果を第2表、暦年較正結果を第3表、暦年較正曲線を第30図に示す。同位体効果による補正を行った測定結果は、炭1が8,010±30BP、炭2が8,000±30BPである。また、測定誤差

を σ として計算させた暦年較正結果は、炭1がcalBC7,051-6,833、炭2 calBC7,046-6,830であり、ほぼ近似した年代値といえる。

第2表 放射性炭素年代測定結果

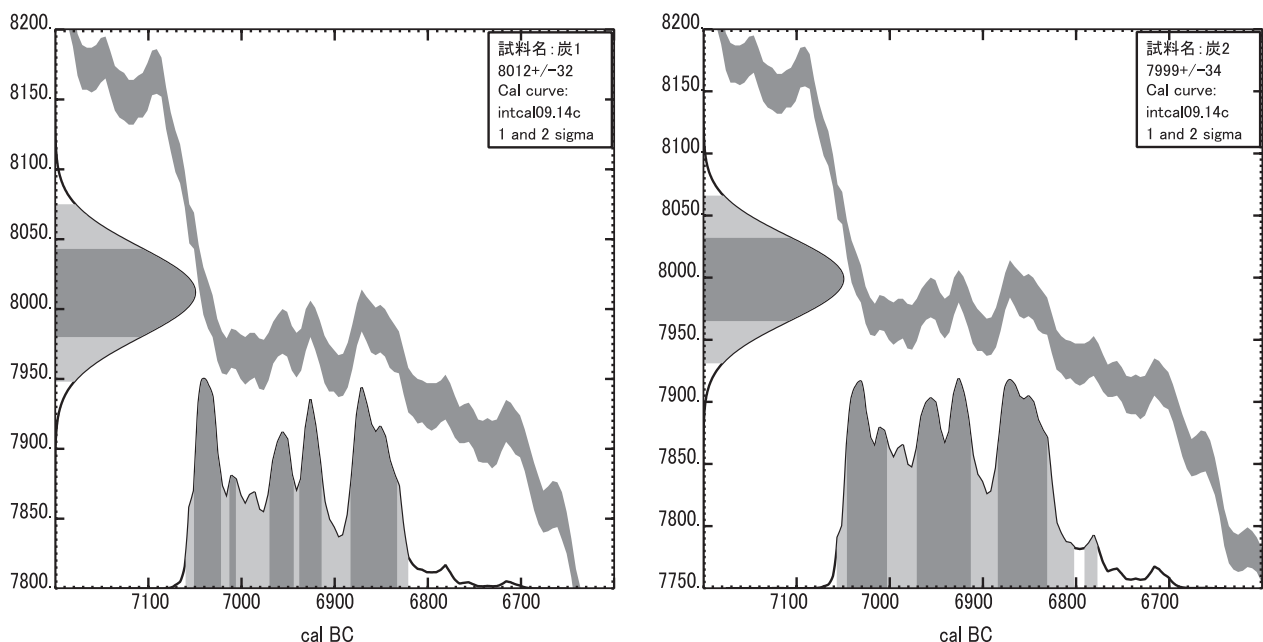
遺構	番号	種別	処理	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code No.
SC6	炭1	炭化材	AAA	8,010±30	-22.62±0.54	7,970±30	IAAA-92148
	炭2	炭化材	AAA	8,000±30	-24.41±0.65	7,990±30	IAAA-92149

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定値誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

第3表 暦年較正結果

番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)				相対比	Code No.
		σ	2σ	σ	2σ		
炭1	8,012±32	σ	cal BC 7,051 - cal BC 7,022	cal BP 9,000 - 8,971	0.244	IAAA-92148	
			cal BC 7,012 - cal BC 7,005	cal BP 8,961 - 8,954	0.037		
		2σ	cal BC 6,969 - cal BC 6,944	cal BP 8,918 - 8,893	0.171		
			cal BC 6,937 - cal BC 6,913	cal BP 8,886 - 8,862	0.174		
炭2	7,999±34	σ	cal BC 7,046 - cal BC 7,002	cal BP 8,995 - 8,951	0.269	IAAA-92149	
			cal BC 6,970 - cal BC 6,912	cal BP 8,919 - 8,861	0.369		
		2σ	cal BC 6,883 - cal BC 6,830	cal BP 8,832 - 8,779	0.362		
			cal BC 7,057 - cal BC 6,801	cal BP 9,006 - 8,750	0.983		
		cal BC 6,791 - cal BC 6,776	cal BP 8,740 - 8,725	0.017			

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を使用した。
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。
- 5) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。



第30図 暦年較正曲線

第V章まとめ

前ノ田村上第2遺跡(三次)発掘調査では、AT(VII層)上位の後期旧石器時代、縄文時代草創期～早期の遺構・遺物を確認することができた。この章では、各時代ごとに整理し、まとめとしたい。

旧石器時代

前ノ田村上第2遺跡(三次)では旧石器時代の遺構は調査区南でのみ礫群8基を検出した。礫群の構成礫は全て尾鈴山酸性岩類を使用しており、赤化礫が多く見られたが、炭化物を含むものは確認されなかった。礫群はVI層で検出され、一部同一層の上部と下部で重なって検出されたものがあった。

遺物については、遺構と同様に調査区南側でのみ出土した。出土した遺物は剥片尖頭器などの石器製品とその素材となる剥片が散在して出土しており、石核を伴う出土は見られなかった。また出土した敲石は全て小型のもので、石核から剥片を剥ぐために使われる大型～中型の敲石は出土していない。本遺跡出土の敲石は石器の調整に使われたものと考えられる。このことから本遺跡で出土した遺物の多くは遺跡とは違う場所で石核から素材となる剥片を剥いでから持ち込んで製作した可能性が高いと考えられる。石材はホルンフェルスと珪質頁岩が多く使用されている。これらのことから本調査区は、居住の場や石器を用いた狩りの場とは考えにくく、むしろ狩りの準備を行う場と考えることが妥当であると思われる。

前ノ田村上第2遺跡(三次)はAT上位の層で遺構・遺物を確認している。宮崎県では旧石器時代10段階編年が組まれており、それによると本遺跡は出土した遺物の器種と出土層位から編年の5段階に位置づけられるが、6段階の角錐状石器が1点のみ出土している。

縄文時代

前ノ田村上第2遺跡(三次)では縄文時代草創期～早期の文化層から土坑を7基検出ただけで集石遺構や竪穴建物跡などは検出されなかった。

検出した土坑のうち1基に炉穴の可能性があるが、検出状態の残存状況が悪く炉穴と断定するのは難しい。SC6から検出した炭化材の放射性炭素年代は、 $8,010 \pm 30BP$ 、 $8,000 \pm 30BP$ 間であるので、縄文時代早期に形成された可能性が考えられる。

遺物については縄文土器の出土は全くなく、アカホヤ下位層から石鏃等の少量の石器が出土しただけである。出土した石鏃は平基や挟りの浅いものだけであり古い様相を呈している。また石鏃の製作に伴う剥片や碎片等は出土せず、石鏃に欠損しているものが見られたことから他の場所で製作され、遺跡内で使用されたと考えられる。

これらのことから、縄文草創期～早期においては石器製作や生活の場ではなく狩猟場としていた可能性が高いと考えられる。

第4表 石材別石器組成表(旧石器時代)

石材	ホルンフェルス系(石材A~B)					流紋岩(石材C)			珪質頁岩(石材D)				頁岩(石材E)			
器種	剥片尖頭器	角錐状石器	彫器	剥片	石核	ナイフ形石器	剥片尖頭器	剥片	剥片尖頭器	彫器	二次加工剥片	石核	剥片	剥片尖頭器	石核	敲石
5段階	8		1	68	7	1	3	7	1	1	2	1	45	1	1	1
6段階		1														
石材	砂岩(石材F)					チャート(石材G)			尾鈴山酸性岩類(石材H)	総計						
器種	ナイフ形石器	削器	剥片	敲石	ナイフ形石器	石核	剥片	石核								
5段階	1	1	8	4	1	1	5	1		171						

第VI章 総括

前ノ田村上第2遺跡は一次～三次調査で発掘調査を終了した。今回それらの調査結果を総括して以下に記す。

後期旧石器時代

後期旧石器時代の特色として、土層堆積の状況から本遺跡の特徴を考察してみる。今回の三次調査と一次調査のそれぞれの基本層序を比較すると、一次調査B区と三次調査区の基本的な土層堆積状況は一致しているが、一次調査A区は他区と少々堆積状況が異なる（第5表）。

一次調査では後期旧石器時代の時代区分が1～4期にわけられている。宮崎県では旧石器時代の10段階編年が組まれており、それによると1期は第5段階、2期は第6段階、3期は第7段階、4期は第8～10段階に位置付けられる。三次調査の主体は編年の第5段階に位置付けられるため一次調査の1期に相当する。以下4つの各期ごとの遺構・遺物について詳細を述べる。

旧石器時代1期

遺構は一次調査15基、三次調査8基と礫群を多く検出した（第31～32図）。遺物は、一次調査では石核を伴い石器ブロックを形成していた流紋岩系と、製品と素材剥片が散在していたホルンフェルス系が石材として見られた。この二種類の石材は搬入形態が異なると考えられている。三次調査の石材はどれも製品と剥片が散在していた。礫群分布の多さと石器出土の状況から旧石器時代1期においては狩りの準備を行う場としていたと考えられる。

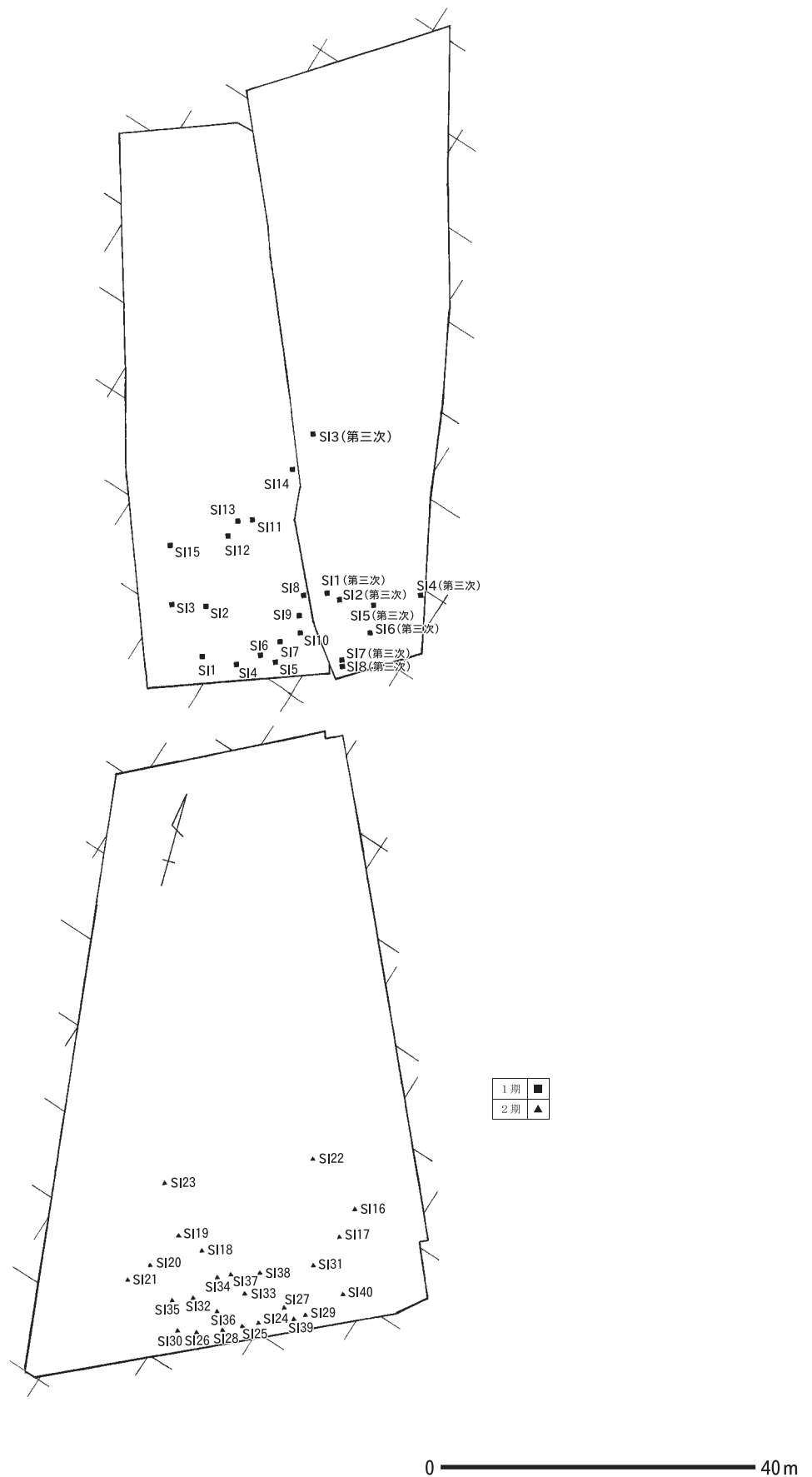
旧石器時代2期

遺構は、1期と比べやや南東方向（一次調査A区）に移動しているが礫群を一次調査A区で25基検出しており、尾鈴山酸性岩類の大型の礫で構成されており散漫に分布していた。

遺物は多量の石器が散在した状態で出土しており、横長剥片素材のナイフ形石器、いわゆる国府型ナイフ形石器が見られ、瀬戸内技法系の横長剥片・

第5表 前ノ田村上第2遺跡基本土層比較表

前ノ田村上第2遺跡（一次調査A区）		前ノ田村上第2遺跡（一次調査B区）		前ノ田村上第2遺跡（三次調査）	
耕作土		耕作土		表土	
I層 K-Ah		I層 K-Ah		I層 K-Ah	
II層-a 黒褐色土(MB0)		II層-a 黒褐色土(MB0)		II層 黒褐色土(MB0)	
II層-b 暗褐色土(ML1)	縄文時代草創期～早期	II層-b 暗褐色土(ML1)	縄文時代草創期～早期	III層 暗褐色土(ML1)	縄文時代草創期～早期
III層 明暗褐色土(ML1)		III層 明暗褐色土(ML1)			
IV層-a 黒褐色土		IV層-a 黒褐色土		IV層 黒褐色土	
IV層-b 明暗褐色土(krkbを含む)	後期旧石器時代3～4期	IV層-b 明暗褐色土(kr-kbを含む)	後期旧石器時代2期	V層 暗褐色土	後期旧石器時代1期
IV層-c 明暗褐色土		V層 暗褐色土			
V層-a 暗褐色土		VI層-a 暗褐色土	後期旧石器時代1期	VI層 暗褐色土(MB1相当)	後期旧石器時代1期
V層-b 黒褐色土					
VI層 褐色土(AT二次堆積)					
VII層-a 暗褐色土					
VII層-b AT		VI層-b AT		VII層 AT	
VIII層 黒褐色土(MB2)		VII層 黒褐色土(MB2)		VIII層 黒褐色土(MB2～3相当)	
IX層 礫層		VIII層 褐色土		IX層 暗褐色土	
		IX層 褐色土			
		X層 褐色土			
		XI層 褐色土			
		XII層 黄褐色土	X層 褐色土		
		XIII層 黄褐色土	XI層 黄褐色土		
		XIV層 礫層	XII層 礫層		



第31図 前ノ田村上第2遺跡1.2期礫群分布図 (S=1/800)

石核が調整剥片等とまとまって出土しており国府型石器群を形成していた。他地域との交流が行われていたとも考えられる。

旧石器時代3期

遺構は一次調査A区で礫群を7基検出した。これは小型の礫で構成され密集した状態であった。

遺物は一次調査A区で剥片と製品が多く出土した。石器製作に関する資料として、剥片の調整加工途中に欠損したと見られる接合資料がある。このような状況から、3期は剥片を持ち込み遺跡内で加工を行っていた可能性が考えられている。

旧石器時代4期

遺構は、一次調査～三次調査において確認されなかった。

遺物は、一次調査A区で細石刃核、細石刃が出土している。船野型、畦原型とされているが、時期的な差異については、出土層位が不安定なため言及されていない。

縄文時代草創期～早期

縄文時代は主に草創期～早期の遺構・遺物が確認された。遺構は、一次調査A区で集石遺構を4基、B区で集石遺構を1基、炉穴を1基検出した。三次調査では土坑を7基検出した。

遺物は、一次調査A区で集石遺構の付近から無文土器や隆帯文土器が出土している。また石鏃も9点出土した。三次調査では石鏃4点が出土した。出土した石鏃は平基や抉りの浅いものが多く見られた。A区で検出された集石遺構は草創期～早期に水場の近くで機能していた集石遺構であると考えられている。

弥生時代終末期～古墳時代初頭

遺構は、一次調査A区で竪穴建物跡が3軒検出されており、内2軒は焼失していたと考えられている。三次調査では、調査区が過密植栽を受けた部分であったことからアカホヤ上位の層が攪乱受けていたこともあり遺構は確認されなかった。

遺物は、一次調査A区の竪穴建物跡から土師器等が、一次調査B区で弥生土器が纏まって出土してい

る。以上のことからこの周辺で弥生～古墳時代にかけて小規模な集落の存在が考えられる。

【参考文献】

- 宮崎県埋蔵文化財センター2006「銀座第1遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第120集
- 宮崎県埋蔵文化財センター2007「中ノ迫第1遺跡（一次・二次）」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第143集
- 宮崎県埋蔵文化財センター2007「中ノ迫第3遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第144集
- 宮崎県埋蔵文化財センター2007「赤坂遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第151集
- 宮崎県埋蔵文化財センター2007「前ノ田村上第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第161集
- 宮崎県埋蔵文化財センター2008「中ノ迫第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第167集
- 川南町教育委員会1983『川南町史』
- 九州旧石器文化研究会2005「宮崎10段階編年の概要」『九州旧石器』第9号
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2000「前ノ田村上第1遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第116集
- 板橋区四葉遺跡調査会1996「四葉地区遺跡旧石器時代編」
- 松本 茂 2008「九州地方における国府石器群の来歴と伝播論」『東京大学公開シンポジウム伝播を巡る構造変動 予稿集』

第6表 石器計測表

図面番号	Gr.	層	石材	注記No.	X座標	Y座標	Z座標	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
1	H12	VI下VII上	B	39	-90470.602	46855.618	60.082	剥片尖頭器	11.1	3.7	2.1	52.2
2	II1	VI中～下	A	208	-90485.27	46862.652	60.008	剥片尖頭器	9.8	3.9	1.8	45.9
3	H12	VI下	A	67	-90471.596	46853.59	60.097	剥片尖頭器	6.6	2.2	1.3	17.6
4	H12	VI中～下	A	171	-90475.968	46855.37	60.047	剥片尖頭器	9	3	1.1	36
5	II1	VI中	A	188	-90480.485	46862.444	60.034	剥片尖頭器	5.3	3.3	1.3	20.2
6	II2	VI下	B	138	-90471.335	46865.869	59.884	剥片尖頭器	3.6	2.5	0.8	5.3
7	H12	VI中～下	E	32	-90478.394	46857.013	60.203	剥片尖頭器	8.5	3.9	1	25.2
8	II1	VI下	C	224	-90480.523	46860.054	59.946	剥片尖頭器	8.1	3.8	1.8	31.9
9	H12	VI中～下	B	54	-90471.421	46852.577	60.24	剥片尖頭器	6.2	3.2	1.4	18.6
10	II2	カクラン	A	I12NE				剥片尖頭器	4.2	3.2	0.9	14.4
11	II2	VI下	C	137	-90471.507	46865.403	59.873	剥片尖頭器	6.1	3.3	1.5	30.1
12	H12	VI中～下	C	31	-90478.337	46856.821	60.208	剥片尖頭器	4.3	3.1	1.2	11.6
13	II1	VI下	D	193	-90482.414	46861.849	60.032	剥片尖頭器	7.1	4.8	1.3	33.9
14	G13	VI下VII上	B	159	-90467.504	46848.716	60.266	角錐状石器	9.6	2.7	1.6	34.6
15	II3	カクラン	G	I13SW				ナイフ形石器	2.4	1.7	0.9	3
16	II2	VI下VII上	C	143	-90479.577	46860.819	60.148	ナイフ形石器	4.8	1.8	0.4	3.6
17	II2	VI下	F	23	-90475.331	46861.693	60.046	ナイフ形石器	4.8	2.9	1	27.4
18	II1	VI下	F	203	-90481.075	46860.326	60	削器	10.9	4.5	2.4	101.7
19	II2	VI下	B	187	-90479.554	46860.366	59.925	彫器	5	2.8	1.4	23.3
20	H13	VI下	D	220	-90468.706	46850.853	60.181	彫器	5.2	2.3	0.9	11.8
21	II2	VI下	D	134	-90475.806	46861.107	60.011	二次加工剥片	8.5	4.3	1.8	61.8
22	H12	VI中～下	D	53	-90470.427	46852.413	60.261	二次加工剥片	4.2	3.4	0.8	8.3
23	II1	VI中	A	235	-90480.149	46860.836	60.023	剥片	9.7	4.6	2.2	68.3
24	II1	VI中～下	A	194	-90483.483	46863.802	60.021	剥片	10.2	2.9	1.1	35.1
25	H12	VI下	A	72	-90473.987	46855.851	60.109	剥片	5.6	2.4	1	12
26	H12	VI上	A	14	-90474.399	46854.46	60.257	剥片	4	1.7	1	6.1
27	I111	VI中～下	A	90	-90479.574	46858.138	60.099	剥片	5.3	3.1	1.1	13.6
28	H12	VI下	A	147	-90474.945	46857.224	60.036	剥片	7.9	3	1.5	25.1
29	II2	VI下VII上	A	142	-90479.936	46860.794	60.123	剥片	6	2.2	1.3	11.2
30	II1	VI中～下	A	196	-90482.557	46863.776	59.982	剥片	4.8	2.1	0.6	6.4
31	H12	VI下VII上	A	168	-90475.914	46855.832	59.997	剥片	3.9	1.7	1.1	5.4
32	II2	VI下	A	132	-90476.205	46861.066	60.029	剥片	5.7	3.3	1.9	41.7
33	H12	VI中～下	A	30	-90477.498	46856.202	60.215	剥片	5.5	2.8	1.1	13.2
34	II1	VI下	B	195	-90482.721	46862.998	59.963	剥片	11.2	5	1.7	68.3
35	H12	VII上	B	47	-90473.865	46859.639	59.978	剥片	11.1	4	1.5	84.7
36	II1	VI下	B	204	-90481.078	46861.783	59.957	剥片	11.15	1.6	0.9	14.1
37	H12	VI中～下	B	166	-90474.391	46856.607	60.084	剥片	10.2	5.3	1.5	74.5
38	H12	VI下	B	68	-90472.65	46854.222	60.083	剥片	9.3	4.8	1.4	51.3
39	II1	VI中～下	B	176	-90481.457	46865.016	59.95	剥片	8.2	2.3	1.1	19.5
40	II2	VI中～下	B	186	-90475.913	46860.265	60.074	剥片	8.6	6	1.6	61.2
41	H12	VI下	B	60	-90471.425	46856.22	60.064	剥片	9	3.1	1.2	32.1
42	H12	VI下VII上	B	42	-90473.465	46858.169	60.05	剥片	9.7	3.7	1.7	57.8
43	H12	VI下VII上	B	70	-90472.64	46856.084	60.049	剥片	11.6	3.3	1.4	43.2
44	H12	VI下	B	56	-90470.857	46851.27	60.2	剥片	8	4.1	1.5	49
45	II2	VI中	B	144	-90479.307	46861.284	59.963	剥片	6.2	2.9	0.8	14.4
46	H12	VI下	B	59	-90473.492	46857.865	60.052	剥片	6.5	2.6	0.9	11
47	II1	VI下	B	212	-90483.954	46863.055	59.953	剥片	6.3	4.8	1.3	28.1
48	H12	VI下	B	165	-90474.967	46855.242	60.017	剥片	3.6	1.6	1.1	6.1
49	H12	VI中～下	B	51	-90470.272	46853.944	60.196	剥片	7.8	1.9	0.8	13.8
50	H12	VI下	B	91	-90479.06	46858.204	60.064	剥片	8.4	3.4	1.6	36.1
51	II2	VI下	B	133	-90476.035	46860.647	59.992	剥片	6.9	4	1.2	29.2
52	H13	VI中	B	111	-90467.752	46852.898	60.291	剥片	5.3	3	1.2	17.2
53	H12	VI下	B	169	-90477.536	46857.872	60.05	剥片	8.3	4.2	1.2	32
54	II2	カクラン	C	I12NE				剥片	2.9	2.1	0.9	4.8
55	II1	VI下	C	174	-90481.953	46865.624	59.938	剥片	2.9	1.85	0.5	2.2
56	H12	VI下VII上	D	58	-90474.341	46858.991	60.024	剥片	8.9	4.3	1.4	43.3
57	II2	VI下	D	136	-90472.894	46862.762	59.988	剥片	7.2	1.9	1	12
58	II2	VI下	D	131	-90476.135	46861.217	59.997	剥片	7.3	3.3	0.9	22.4
59	II2	VI中～下	D	128	-90478.123	46862.004	60.035	剥片	6.5	2.1	0.6	7.5
60	H13	VI下VII上	D	218	-90468.579	46851.074	60.176	剥片	8.5	2.4	1.3	27.5
61	II2	VII中	D	149	-90479.778	46861.234	59.739	剥片	7.2	5.3	1.7	47.3
62	II1	V下	D	183	-90482.452	46863.164	60.187	剥片	5.2	2.4	1.1	9.1
63	II1	VI下	D	205	-90481.925	46860.757	60.021	剥片	5.8	3.4	1.2	17.2
64	H12	VI下	D	64	-90470.205	46852.998	60.093	剥片	8.9	3.5	10.8	50.8
65	H12	カクラン	D	H12NW				剥片	3.3	3.4	1.45	16.3
66	H12	VI下VII上	D	172	-90471.611	46857.989	59.935	剥片	2.1	2	0.5	2
67	II1	カクラン	D	I11NW				剥片	5.3	3.3	1.2	24.5
68	II1	V下	D	4	-90481.998	46865.568	60.196	剥片	5	1.4	0.7	4.4
69	II2	VI中～下	D	124	-90479.599	46863.833	59.953	剥片	3.5	2.7	0.8	7.5
70	II2	VI下	F	129	-90477.559	46862.311	59.969	剥片	4.5	1.5	0.6	3.8
71	II1	VI中～下	F	139	-90480.754	46864.408	60.051	剥片	4.2	2.65	1	12.2
72	H12	VI下VII上	F	170	-90472.667	46857.34	59.926	剥片	4	2.9	0.9	7.2
73	II2	VI下VII上	F	178	-90471.651	46863.352	59.884	剥片	6.8	3.3	1.6	28.4
74	II2	VI中～下	F	126	-90478.547	46864.076	59.957	剥片	6.1	4.3	1.8	42.5
75	H12	VII中～下	F	49	-90472.301	46854.987	60.155	剥片	6.1	2.4	0.8	10.5
76	J11	VI下VII上	F	229	-90488.872	46871.484	59.866	剥片	7.6	2.8	0.9	18.1

図面番号	Gr.	層	石材	注記No.	X座標	Y座標	Z座標	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
77	H12	Ⅵ下	B	50	-90471.315	46853.805	60.117	剥片	10	6.2	2.1	853
78	H12	Ⅵ下	B	164	-90473.759	46855.546	60.023	剥片	6.9	4.6	1.7	46.5
79	Ⅱ1	Ⅵ中～下	B	197	-90482.149	46863.763	59.993	剥片	7	2.3	1.3	19.5
80	Ⅱ1	Ⅵ下	B	198	-90481.984	46864.243	59.942	剥片	3.2	2.2	0.9	5.5
81	J13	Ⅵ下Ⅶ上	B	230	-90466.39	46874.073	60.172	剥片	2.7	2.8	0.5	2.5
82	Ⅱ2	Ⅵ上～中	B	16	-90476.95	46862.227	60.096	剥片	2	1.8	0.4	1.1
83	H12	Ⅵ中～下	B	40	-90470.602	46856.727	60.159	剥片	3.2	3	0.5	2.6
84	H12	Ⅵ下	B	73	-90474.471	46855.266	60.071	剥片	3.5	1.4	0.6	3.6
85	Ⅱ2	Ⅵ下	B	185	-90479.567	46868.435	59.886	剥片	1.3	2.4	0.4	1.5
86	H12	Ⅵ中～下	A	17	-90473.903	46859.892	60.047	剥片	6.8	4.1	1.6	44
87	Ⅱ1	Ⅵ下	A	175	-90481.786	46865.444	59.895	剥片	6	3.8	2.3	55.2
88	H12	Ⅵ下Ⅶ上	B	69	-90472.926	46855.512	60.057	剥片	3.2	2.4	1	6.8
89	H13	Ⅵ上	B	11	-90469.613	46855.93	60.166	剥片	2.6	1.6	0.5	1.9
90	Ⅱ2	Ⅵ下	A	181	-90478.08	46864.868	59.863	剥片	3.6	4	1.2	18.4
91	H11	Ⅵ下Ⅶ上	B	233	-90480.06	46859.147	59.953	剥片	2.4	1.5	0.6	2
92	H12	Ⅵ上～中	B	35	-90478.513	46859.366	60.203	剥片	1.5	1	0.4	0.5
93	Ⅱ1	Ⅵ下	B	206	-90481.66	46861.921	59.979	剥片	1.3	1.3	0.4	0.3
94	G14	Ⅵ中	A	232	-90455.283	46840.011	59.029	剥片	6.9	4.1	1.5	39.3
95	Ⅱ2	Ⅵ下	A	130	-90477.335	46862.1	59.966	剥片	5.7	3.6	0.9	12.7
96	Ⅱ2	カクラン	B	I12NE				剥片	4.5	3.1	1.1	14.6
97	F15	Ⅶ上	A	211	-90443.647	46839.671	58.937	剥片	6.8	3	1.7	30.2
98	Ⅱ2	Ⅵ中～下	A	127	-90478.513	46862.848	60.03	剥片	2.9	4.4	1	6.5
99	H13	Ⅵ中～下	D	213	-90468.481	46850.048	60.222	剥片	5.3	3.4	1.3	28.4
100	Ⅱ1	Ⅵ中	D	167	-90480.502	46865.729	59.911	剥片	5.8	4.2	1.7	31.2
101	Ⅱ1	Ⅵ中	D	192	-90481.528	46861.349	60.055	剥片	4.3	2.2	0.7	5
102	Ⅱ1	Ⅵ中～下	D	236	-90480.143	46862.39	59.938	剥片	3.8	3	0.5	2.5
103	Ⅱ1	Ⅵ下Ⅶ上	D	225	-90480.598	46860.103	59.928	剥片	5.5	3	0.7	9.5
104	H13	Ⅵ中～下	D	209	-90469.549	46851.395	60.134	剥片	2.1	1.2	0.3	0.5
105	G13	カクラン	D	G13NE				剥片	1.8	1.7	0.5	1.9
106	Ⅱ2	カクラン	D	I12NE				剥片	1.8	1.5	0.3	1.6
107	Ⅱ2	Ⅵ中～下	D	125	-90479.329	46863.817	59.948	剥片	1.4	2.2	0.4	0.7
108	Ⅱ1	V～Ⅶ上	D	112	-90480.096	46863.6	59.886	剥片	1.25	2.5	0.7	1.3
109	H13	Ⅶ上	D	217	-90468.49	46851.031	60.072	剥片	1.15	2.6	0.3	0.9
110	Ⅱ2	Ⅵ下	D	177	-90479.482	46864.174	59.824	剥片	1.4	2.4	0.5	1.4
111	H13	Ⅵ下	D	223	-90468.777	46851.355	60.192	剥片	1.7	2.4	0.5	1.4
112	Ⅱ1	Ⅵ下	D	202	-90481.469	46862.594	59.99	剥片	1.8	2.8	0.6	2.9
113	Ⅱ2	Ⅵ中	D	122	-90479.771	46864.732	60.004	剥片	3.1	4.1	0.9	8.4
114	Ⅱ1	Ⅵ中～下	C	120	-90480.027	46864.761	59.896	剥片	3.7	2.6	0.7	6.3
115	G13	Ⅵ下	C	162	-90462.38	46845.526	60.089	剥片	3.9	2.1	0.7	4.2
116	Ⅱ2	Ⅵ中～下	C	123	-90479.701	46864.48	59.938	剥片	2.2	1.8	0.7	2.1
117	F18	Ⅲ	C	190	-90411.179	46831.869	60.123	剥片	4.1	4.7	1.9	25.8
118	Ⅱ1	Ⅵ中	G	226	-90481.751	46866.474	59.868	剥片	4.1	2.6	0.8	11.2
119	H12	Ⅵ下Ⅶ上	G	95	-90479.216	46858.716	60.01	剥片	1.6	2.4	0.6	1.4
120	Ⅱ2	Ⅵ下	G	179	-90477.683	46862.471	59.878	剥片	1.4	1.5	0.3	0.7
121	Ⅱ1	Ⅵ中	F	189	-90480.788	46861.302	60.127	剥片	2.4	2.3	0.4	2.1
122	Ⅱ1	V下	A	5	-90481.027	46862.324	60.188	石核	5	4.3	3.5	57.2
123	H12	Ⅵ中～下	A	SI01-3	-90477.299	46856.97	60.061	石核	12.8	7.9	5.4	498
124	H12	Ⅵ中～下	A	SI01-2	-90477.199	46856.898	60.085	石核	15.7	7.7	2	285.1
125	H12	Ⅵ中～下	B	SI01-4	-90477.211	46856.951	60.067	石核	13.5	6.9	2.9	198
126	Ⅱ2	Ⅵ中～下	A	135	-90473.727	46861.515	60.063	石核	4.3	6.1	1.8	29.7
127	Ⅱ1	Ⅵ	E	207	-90481.45	46862.764	59.994	石核	8.1	1.9	8.5	173.3
128	Ⅱ3	カクラン	H					石核	13.5	8	5.1	809
129	Ⅱ2	カクラン	D	I12NE				石核	8.1	4.9	4.7	210
130	Ⅱ2	カクラン	G	I12NW				石核	5.5	4.9	2.3	62.6
131	Ⅱ1	Ⅵ中～下	E	117	-90481.545	46865.549	59.932	敲石	6	5.2	2.2	66.2
132	H12	Ⅵ下Ⅶ上	F	87	-90474.295	46855.611	60.01	敲石	13.2	4.3	2.7	178.1
133	H12	Ⅵ下Ⅶ上	F	45	-90473.774	46859.249	60.017	敲石	12.4	3.9	1.8	129.6
134	Ⅱ1	Ⅵ中～下	F	SI08-6	-90483.772	46862.942	59.955	敲石	9	4	2.6	142.4
135	H12	Ⅵ中～下	F	SI01-9	-90476.415	46855.955	60.098	敲石	8.4	3.2	2.3	97
136	H12	Ⅵ下Ⅶ上	D	44	-90474.398	46858.686	60.036	石刃	9.6	3.1	1.7	49.5
137	H13	Ⅵ中～下	D	210	-90469.685	46850.96	60.177	剥片	6.2	3.2	1.1	23
138	H13	Ⅶ上	D	216	-90468.141	46850.699	60.154	剥片	1.5	2.5	0.4	1.7
139	H13	Ⅵ下	D	221	-90468.76	46850.808	60.204	剥片	2.5	2	0.3	1.7
140	H13	Ⅵ下	D	222	-90468.832	46850.958	60.223	剥片	2.3	2.7	0.4	2.4
141	J13	Ⅶ上	D	231	-90468.429	46872.596	60.073	剥片	1.1	1.5	0.1	0.3
142	H12	Ⅵ中～下	A	SI01-1	-90477.239	46856.815	60.071	石核	9	7.8	3.7	282.8
143	H12	Ⅵ下	A	81	-90476.237	46856.182	60.1	剥片	4.6	3.2	1.4	27.9
144	H12	Ⅵ下	A	82	-90475.953	46856.408	60.105	剥片	1.7	2.8	0.9	4.2
145	H12	Ⅵ下	A	180	-90476.424	46856.265	60.017	石核	4.8	3.5	2.1	32
146	Ⅱ1	Ⅲ下	B	1	-90482.656	46860.885	60.293	石鏟	3.3	1.9	0.5	1.6
147	G17	Ⅲ	G	140	-90429.441	46842.635	59.883	石鏟	1.5	1.3	0.3	0.5
148	F17	Ⅲ	G	99	-90426.867	46838.71	59.832	石鏟	2	1.7	0.4	0.9
149	E18	Ⅲ	黒曜石a	157	-90416.513	46828.939	60.109	石鏟	2.1	1.6	0.3	0.6
150	Ⅱ2	カクラン	黒曜石b	I11NW				剥片	3	2.3	0.9	4.5
151	F18	Ⅲ	黒曜石b	158	-90416.832	46830.476	60.15	細石刃核	2	1.8	0.9	2.7
152	F17	Ⅲ	B	102	-90427.59	46836.162	59.885	石核	3.4	3.1	2.6	25.4
153	H12	Ⅲb下Ⅳ上	H	2	-90474.237	46854.214	60.264	磨石	11.9	9.2	6.5	1091



北西方向から臨む前ノ田村上第2遺跡（三次）周辺



前ノ田村上第2遺跡（三次）周辺

図版 2



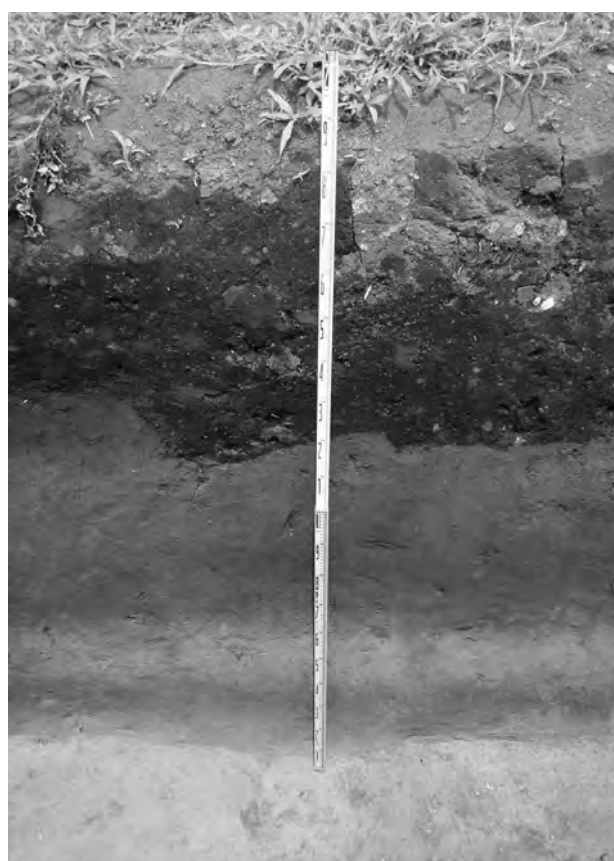
調査区全景



調査区南側



調査区北側土層断面



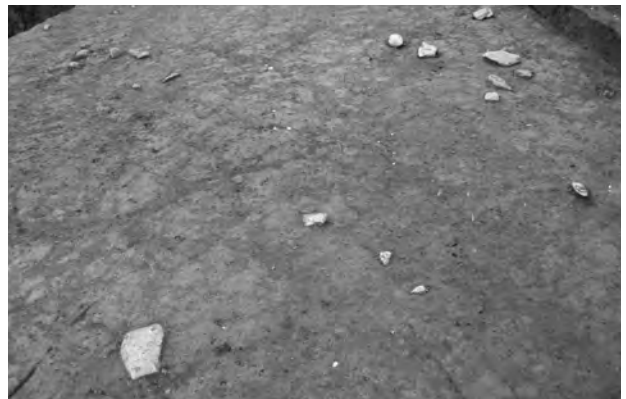
調査区南側土層断面



礫群



作業風景



S I 1・2



S I 3



S I 4



S I 5

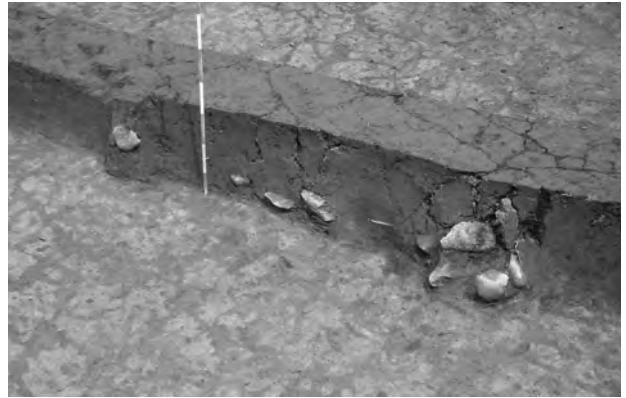


S I 6

图版 4



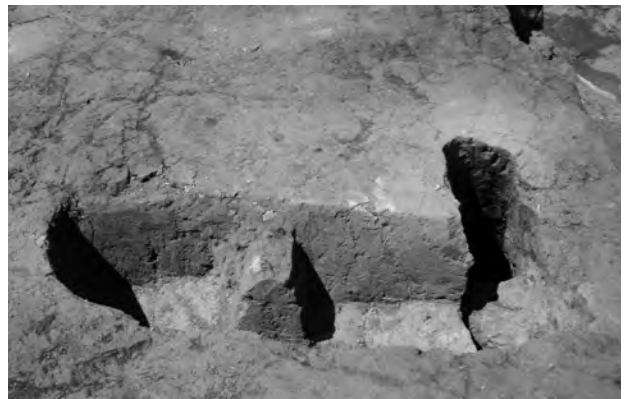
SI 7



SI 7 断面



遺物出土狀況



SC 6



SC 8



SE 1



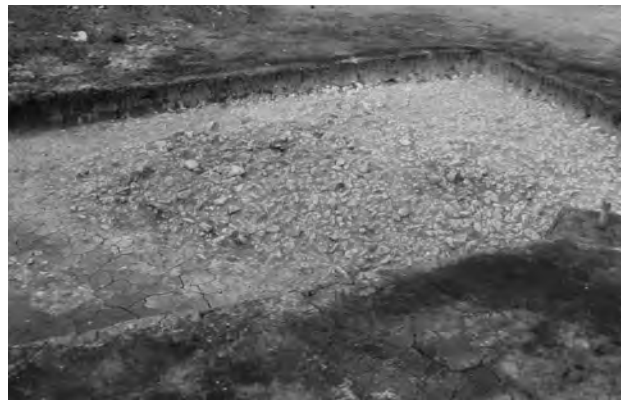
SE 1 土層断面



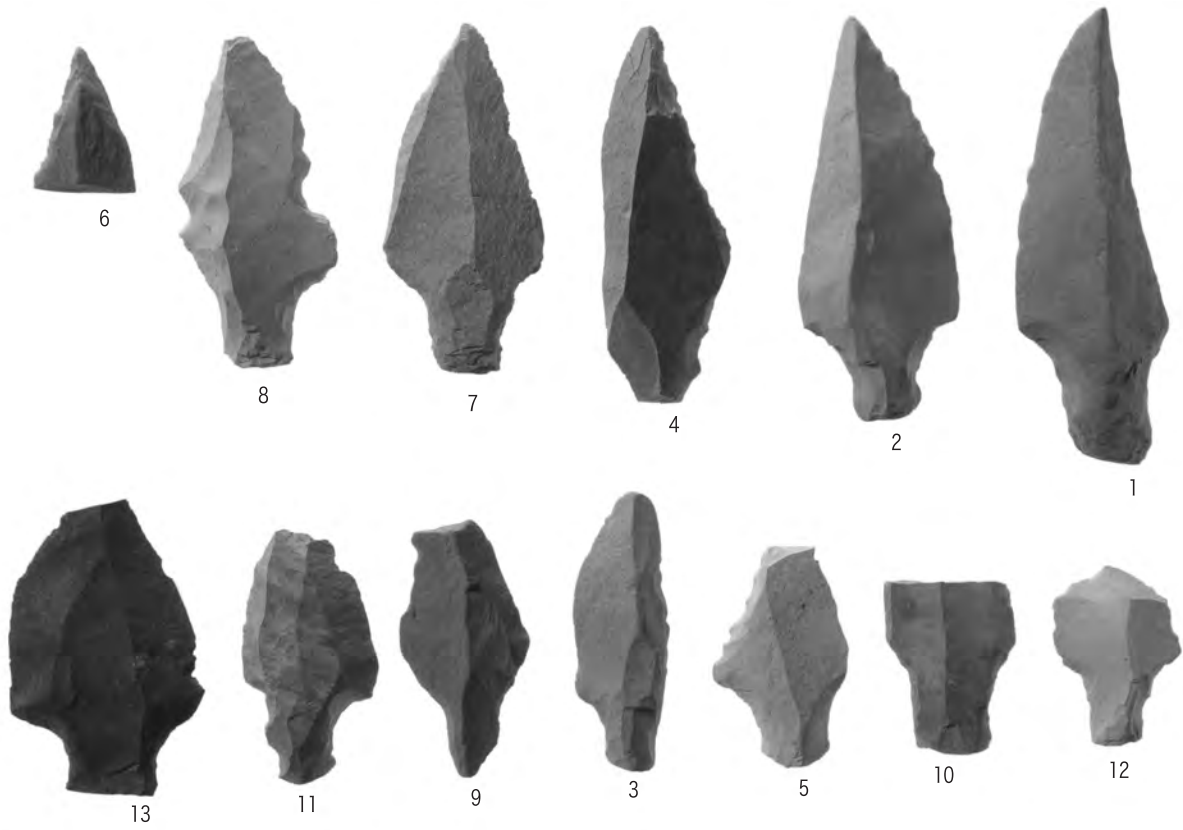
S E 2



S E 2 土层断面

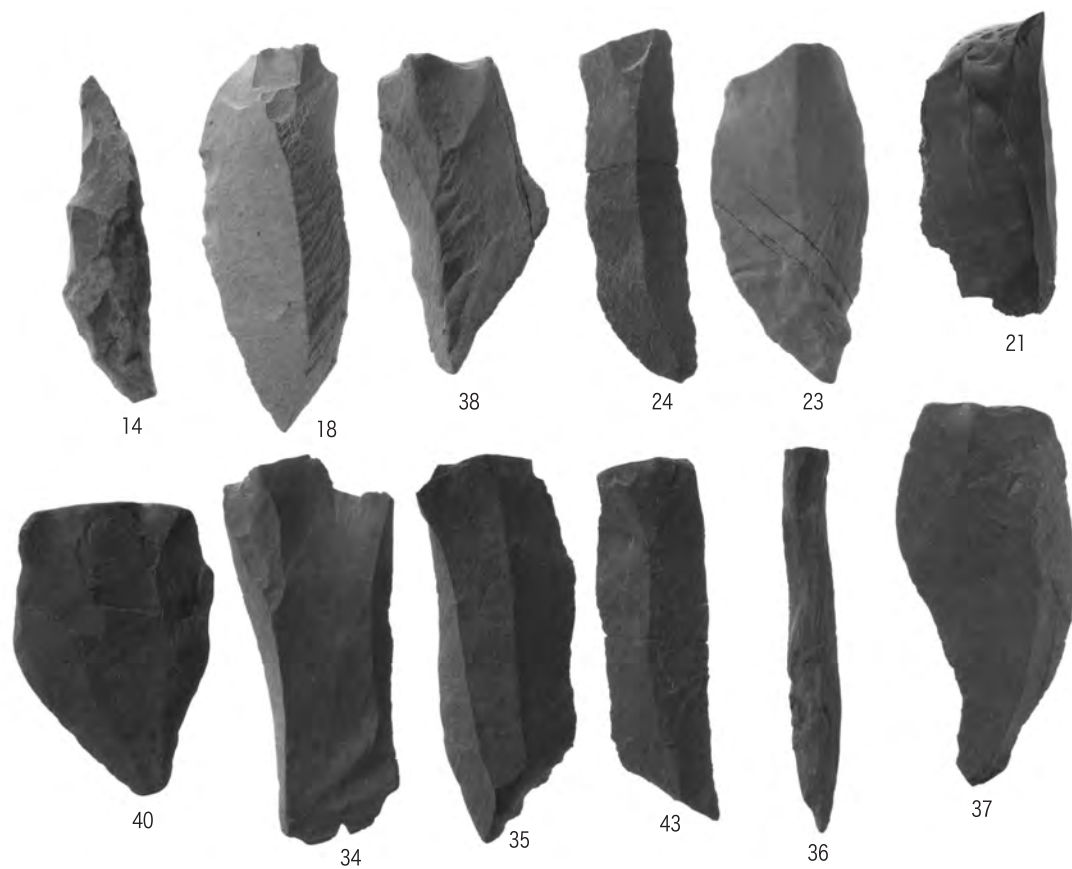


土石流

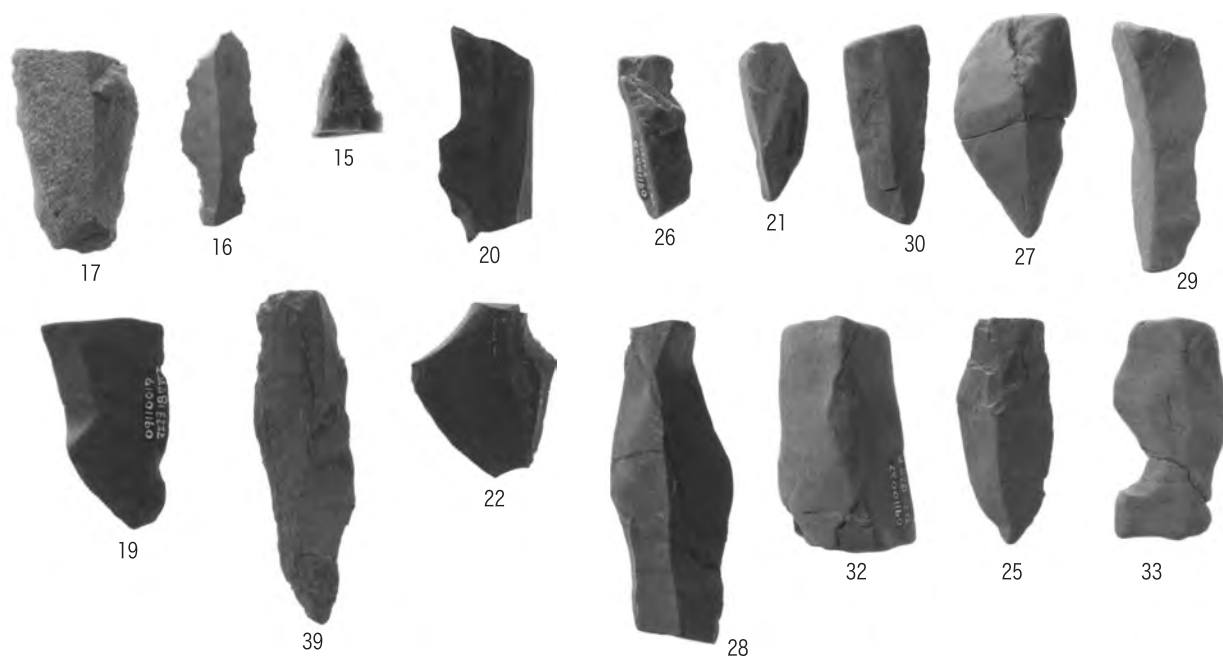


旧石器出土遺物①

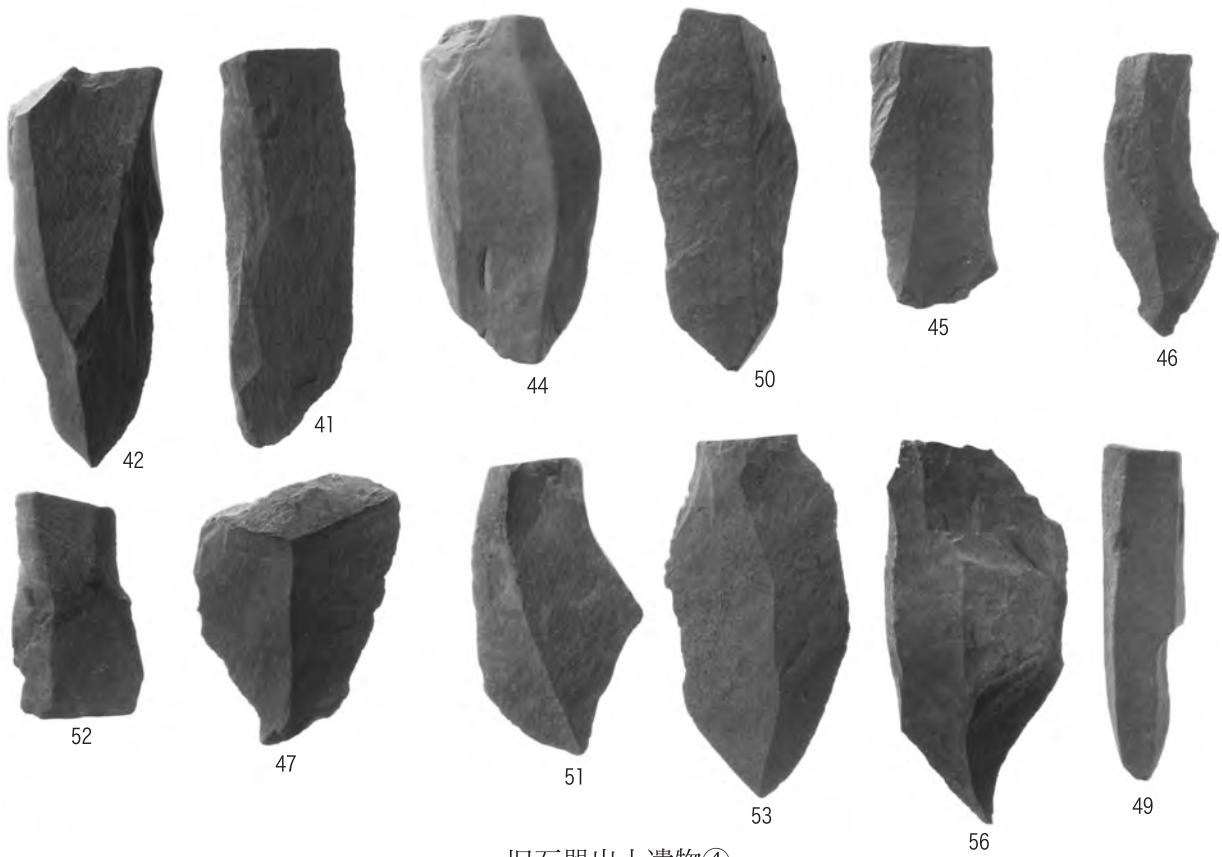
图版 6



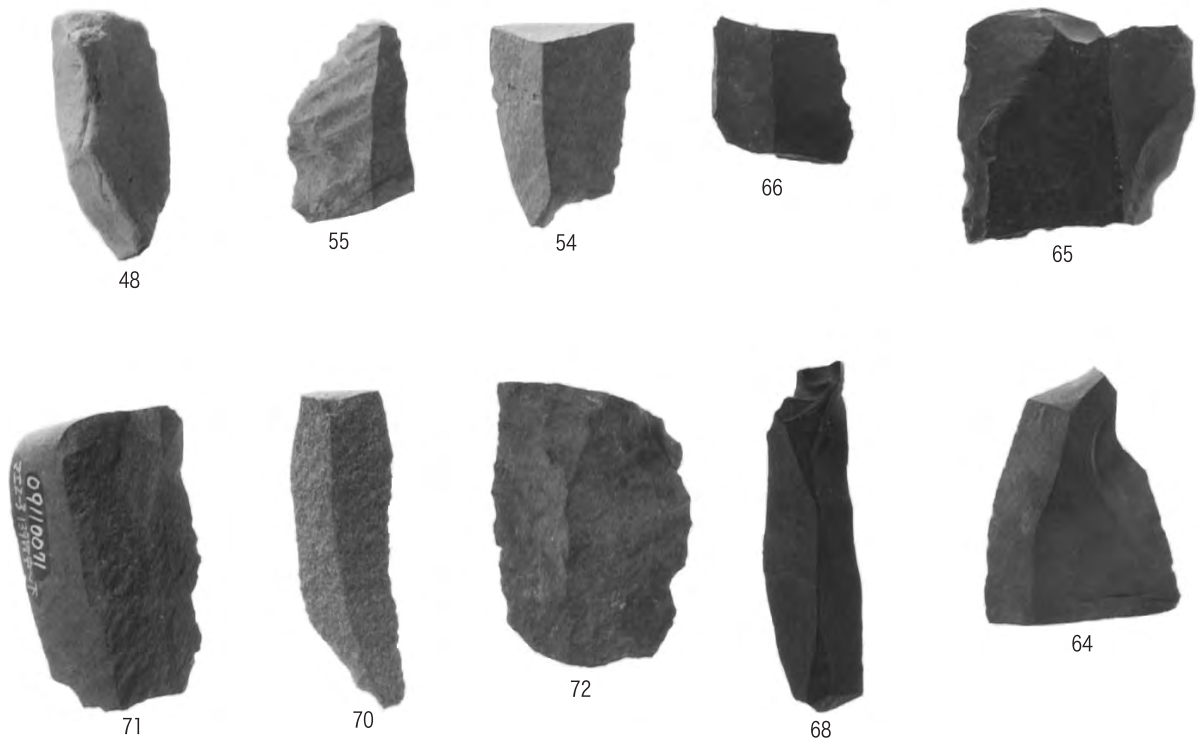
旧石器出土遺物②



旧石器出土遺物③

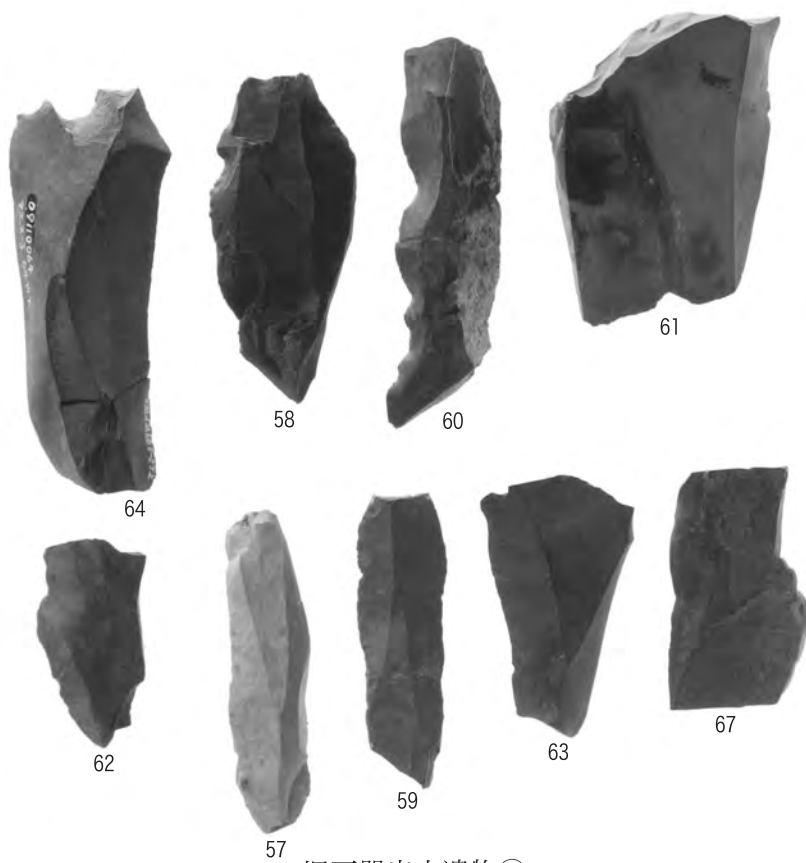


旧石器出土遺物④

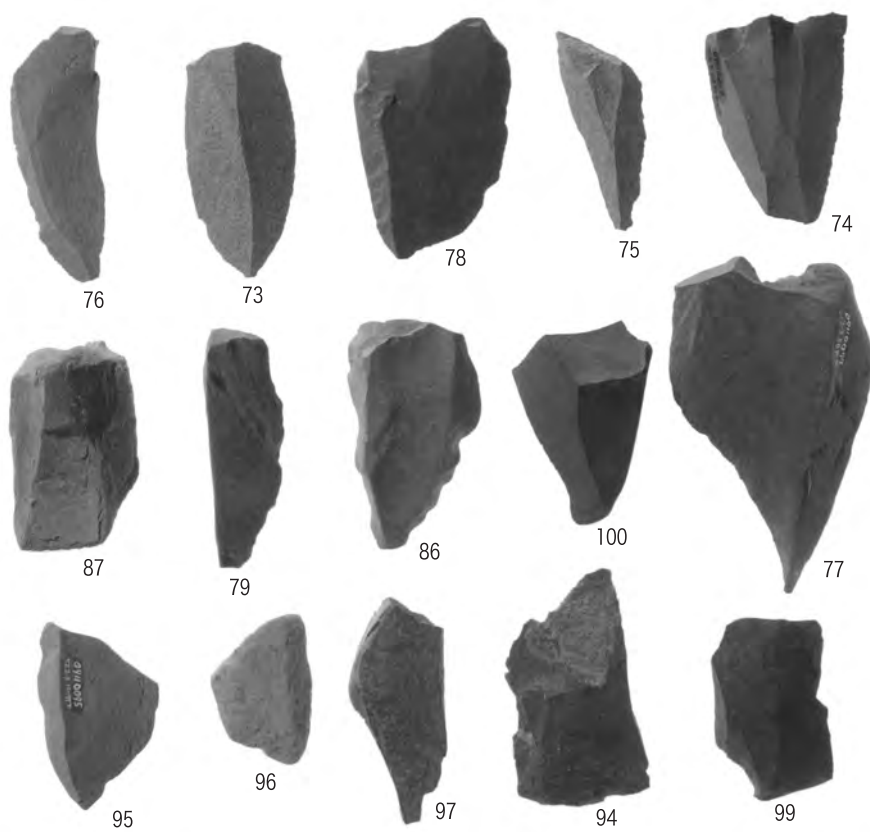


旧石器出土遺物⑤

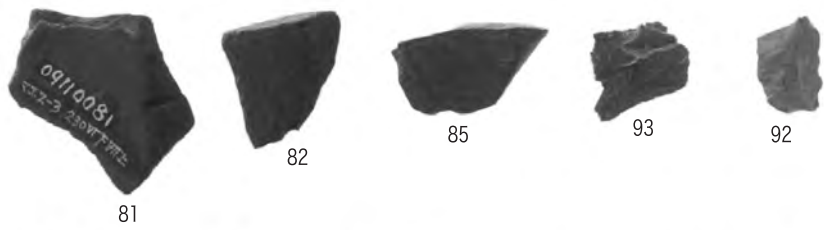
图版 8



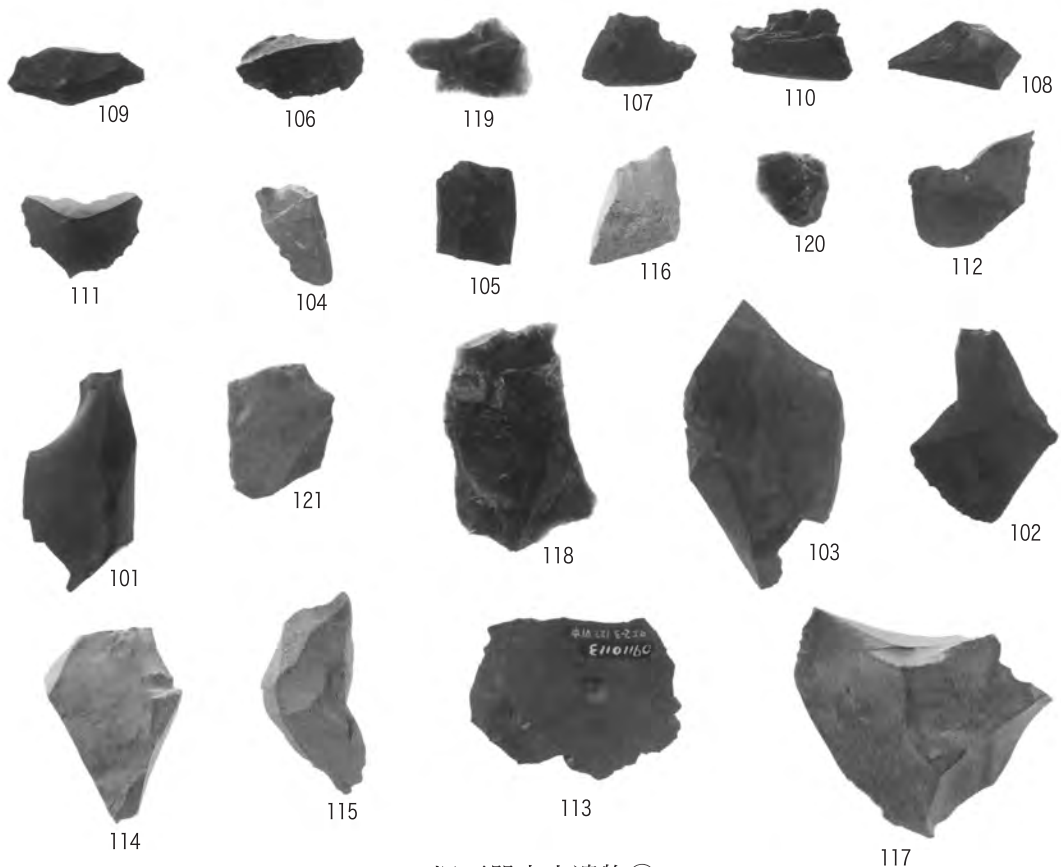
旧石器出土遺物⑥



旧石器出土遺物⑦

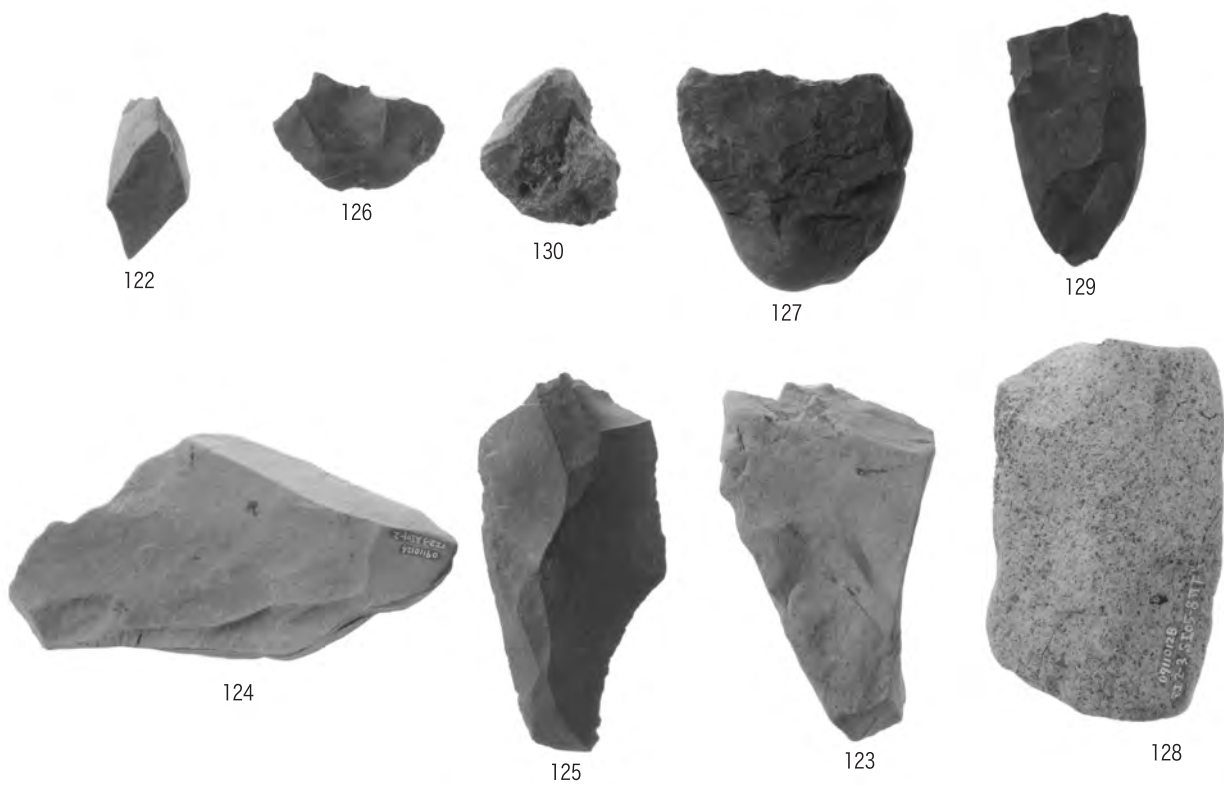


旧石器出土遺物⑧

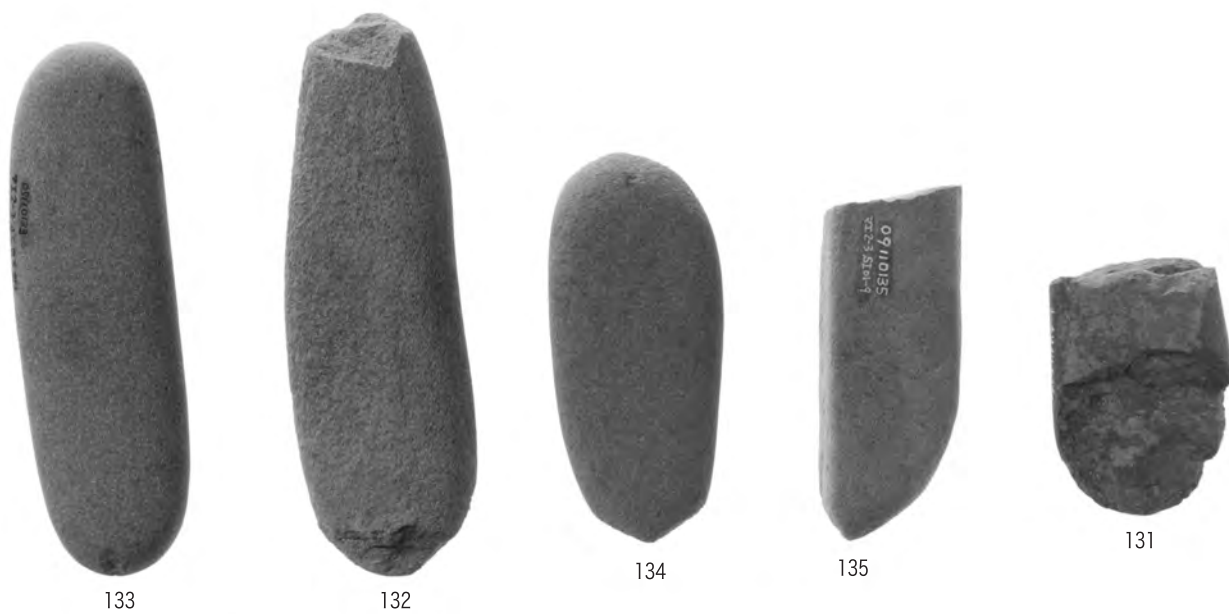


旧石器出土遺物⑨

图版10



旧石器出土遺物⑩



旧石器出土遺物⑪



接合資料 1



接合資料 2

旧石器出土遺物⑫



147



148



149



146



150



151



152



153

縄文出土遺物

報 告 書 抄 録

ふ り が な	まえのだむらかみだい2いせき 2じ・3じちょうさ							
書 名	前ノ田村上第2遺跡 二次・三次調査							
副 書 名	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書66							
シ リ ー ズ 名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シ リ ー ズ 番 号	第197集							
編 著 者 名	深 江 龍 哉							
発 行 機 関	宮崎県埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒 880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地 TEL 0985-36-1171							
発 行 年 月 日	西暦 2011年1月25日							
ふ り が な 所 収 遺 跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まえのだむらかみ 前ノ田村上 だい2いせき 第2遺跡	みやざきけん 宮崎県 こゆぐん 児湯郡 かわみなみちよう 川南町 おおあざかわみなみ 大字川南 あざまえのだ 字前ノ田	45405	911	32度 05分 48秒 付近	131度 26分 10秒 付近	2009.06.08 ～ 2009.09.11	1,120㎡	東九州自動車 道（都農～西 都間）建設に 伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物			特記事項	
前ノ田村上 第2遺跡	集落跡	後期旧 石器	礫群 8基	剥片尖頭器・角錐状石器 ナイフ形石器・削器・彫器 敲石・石核・剥片				
		縄文時代 草創期～ 早期	土坑 8基	石鏃・細石刃核・磨石 剥片・石核				
		時期不明	溝状遺構 2条					
要 約	<p>前ノ田村上第2遺跡（三次）は、川南町大字川南字前ノ田に所在する。調査は平成21年6月～9月にかけて行った。調査の結果、後期旧石器時代、縄文時代草創期～早期の遺構・遺物を確認した。旧石器時代の遺構は礫群8基を、縄文時代草創期～早期の遺構は土坑を7基検出した。検出した土坑の1基は埋土に焼土を含んでおり炉穴の可能性がある。またアカホヤ火山灰上面より時期不明の溝状遺構を2条検出した。遺物は剥片尖頭器、ナイフ形石器など後期旧石器時代の石器が多く出土した。縄文時代の遺物は石鏃など少量の石器が出土したが、土器の出土はなかった。</p>							

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第197集

前ノ田村上第2遺跡（二次・三次）

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書66

2011年1月25日

発行 宮崎県埋蔵文化財センター
〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地
TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660

印刷 株式会社ヒダカ印刷
〒880-0862 宮崎県宮崎市潮見町13-5
TEL 0985(28)4113 FAX 0985(24)8451
